

## 目次

①	設置の趣旨及び必要性	P. 2
②	学部・学科等の特色	P. 19
③	学部・学科等の名称及び学位の名称	P. 19
④	教育課程の編成の考え方及び特色	P. 20
⑤	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	P. 23
⑥	多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修 させる場合の具体的計画	P. 35
⑦	実習の具体的計画	P. 35
⑧	企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実 習を実施する場合の具体的計画	P. 46
⑨	取得可能な資格	P. 46
⑩	入学者選抜の概要	P. 47
⑪	教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色	P. 50
⑫	研究の実施についての考え方、体制、取組	P. 51
⑬	施設、設備等の整備計画	P. 51
⑭	管理運営	P. 52
⑮	自己点検・評価	P. 53
⑯	情報の公表	P. 54
⑰	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	P. 55
⑱	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	P. 57

## 1. 設置の趣旨及び必要性

### (1) 社会的背景と設置の趣旨

昭和24年5月に設置された新制熊本大学法文学部文科を前身とする文学部は、昭和54年に分離独立して、学部として新しくスタートし、令和6年度現在、「総合人間学科」、「歴史学科」、「文学科」、「コミュニケーション情報学科」の4学科を有している。豊かな人間性と高度な専門性および総合的な視野を養うべく、少人数による柔軟で発展性のある指導、実践的教育に重きをおき、人間・社会・文化に関わる幅広い領域にわたって教育を展開している。

時代や社会の変化に機敏に応え、平成9年には学際コースを設けて、学科間の垣根を越えて学ぶことができる新しいシステムを導入し、平成17年にはさらにそれを発展させ、情報メディアの運用能力と英語による優れた国際コミュニケーション能力をともに学ぶことができるコミュニケーション情報学科を新設し、現在、4学科のもとに10コース、22の多彩な教育研究領域を設置して教育を展開するなど、地域文化を担い、国際社会に貢献できる社会のリーダーとなる人材養成に努めている。

一方で、近年、少子高齢化と人口減少が急激に進み、特に18歳人口の減少が顕著であり、本学においても文系学部を中心に志願倍率の低下が年々進んでいる状況である。また、現行の4学科10コース22教育研究領域の体制では、入学前に学科(詳細の専門領域)を決定する必要があり、学生の関心に沿った柔軟なコース選択が可能な状況とはなっていない。

グローバル化が急速に進み、新たな価値の創造への期待が高まる現代にあって、人類社会の持続的発展を実現するため、国立大学の教育と研究はこれまでにない重要な役割を担っており、その際、特に人文社会科学の教育・研究の高度化と人材の育成は、人類の未来のあり方を考究するうえで欠くことのできない国立大学の主要な機能となっている。人文・社会科学諸分野を横断する包括的・総合的な教育・研究を展開し、人文・社会科学の学問を通して、他者と共有、共感しあい、社会や心の豊かさを探求することを目的とし、現行の4学科から1学科への改組を行い、学生が持つ多様な関心に沿った柔軟なコース選択を可能とするため、入学後の学生の専門コースへの配属を2年次とし、1年次の幅広い学修を踏まえたうえで文学部を構成する全てのコースから配属先を選択するなど、柔軟なコース選択と分野横断的な学びを提供することとしている。

#### 【資料1：文学部改組概要】

### (2) 養成する人材像

前述のとおり、現代社会の急速なグローバル化の進展と人類社会の持続的発展に資する新たな価値創造への期待に応えるため、本学部では、人文・社会科学の学問を通して、創造的な知性をもって自ら課題を発見し解決する実践的な能力及び現代を生きる人間に必要なグローバルな視野と市民的公共心を備え、他者と共有、共感しあい、社会や心の豊かさを探求することができる人材を養成する。

### (3) 卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

#### ◆人材育成の目的・学位授与の方針

文学部は、学士課程教育において、人文・社会科学諸分野を横断する包括的・総合的な教育・研究を展開し、「創造的な知性をもって自ら課題を発見し解決する実践的な能力及び現代を生きる人間に必要なグローバルな視野と市民的公共心を備え、他者と共有、共感しあい、社会や心の豊かさを探求することができる」人材の育成を目標としています。

このことを踏まえ、教養教育にて修得する幅広い分野の知識を素地とし、各コースにおいて修得する分野の特性に応じた知識・能力に基づいて本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、所定の単位を修得した人に学士（文学）の学位を授与します。

#### ○人間科学コース

人文科学科人間科学コースは、人間や人間関係についての知見を持ち、目先の利害にとらわれず、教養ある批判的判断のできる人材の育成を目標とするとともに、それぞれの履修モデルの特性を活かして、論理的判断力（哲学）や実証的判断力（心理学）を養い、問題解決への柔軟で大胆な発想をすることができ、状況に応じた行動がとれる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・人間科学（哲学・心理学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

#### ○社会人間学コース

人文科学科社会人間学コースは、「社会的存在としての人間」という認識から出発し、人間と人間を取り巻く社会的現象にかかわる人材の育成を目標とします。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・論理的思考や学外での調査などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

#### ○地域科学コース

人文科学科地域科学コースは、「地域社会の生活主体としての人間」という観点から、人間とその地域的環境（社会文化的・自然的環境）について多面的・有機的に理解を深め、現代の地域社会が抱える諸問題の解決に実践的に取り組む人材の育成を目標とします。このことを踏まえ、

本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。
- ・論理的思考、実験による分析、学外での調査や実習などを通じて、柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・外国語の文献を読解する能力を持ち、異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

#### ○歴史資料学コース

人文科学科歴史資料学コースは、文献史料や考古資料を的確な手法・技術で調査・分析する作業を通じて過去の歴史を読み解き、さらに人間や社会について真摯に考察するとともに、現代を含めた時代の本質を正しく理解したうえで現代社会の諸問題に対応し、発言できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・日本史学・考古学に関する専門的な知識や理論、技術を駆使して、主体的に史資料を調査・収集し、的確に分析・論述することができる。
- ・歴史学全般の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示を行うことができる。
- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

#### ○超域歴史学コース

人文科学科超域歴史学コースは、史料の総合的分析力に依拠した論理実証力を基礎に、アジアと欧米の歴史展開や社会思想を地域横断的かつ総合的に分析・討論することを通じて、異なる社会や文化に対する理解を深め、広い視野と柔軟な思考力をもって現代社会の諸問題に対応し、発言できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・アジア史学・西洋史学・近現代社会思想史学に関する専門的な知識や理論、外国語（欧米諸語、漢文、中国語等）運用能力を駆使して、主体的に史料を調査・収集し、的確に分析・論述することができる。
- ・歴史学全般の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法の提示を行うことができる。
- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解・考察することができる。

#### ○東アジア言語文化学コース

人文科学科東アジア言語文化学コースは、東アジアの伝統文化や現代的課題に対して幅広い目配りの出来る豊かな専門的知識と理解力を修得し、東アジアの言語や文学、文化に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・東アジアの言語や文学、文化の基本的概念・理論について説明できる。
- ・東アジアの言語や文学、文化に関する知見を用いて、今日的課題を見出し、解決法を提案できる。
- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

#### ○欧米言語文化学コース

人文科学科欧米言語文化学コースは、英語、独語、仏語の実践的な運用能力を高めるとともに、各言語圏の言語、文学、文化、社会についての知見を幅広く獲得し、自国の文化や制度に対する相対的な視点を持ち、英語、独語、仏語やそれらの言語による文学、文化に関して新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・欧米の言語や文学、文化の基本的概念・理論について説明できる。
- ・欧米の言語や文学、文化に関する知見を用いて、今日的課題を見出し、解決法を提案できる。
- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

#### ○多言語文化学コース

人文科学科多言語文化学コースは、異文化接触がもたらす文化変容、もしくは人類の言語文化及びその精華である文学作品の諸相に関して、その相互作用を複眼的・国際的に考察する視野を持ち、比較文学、国際文化学の視座から新たな課題を発見、解決し、その成果を的確に表現できる能力を獲得することを目指しています。このことを踏まえ、本学が定める学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学位（文学）を授与します。

- ・比較文学・比較文化、国際文化学の基本的概念・理論について説明できる。
- ・比較文学・比較文化、国際文化学に関する知見を用いて、今日的課題を発見し、解決法を提案できる。
- ・明晰な論理と説得力ある表現とを用いて事実や意見を伝えることができる。

#### ○現代文化資源学コース

人文科学科現代文化資源学コースは、有形・無形のさまざまな文化資源を収集・整理・分析する能力、外国語運用能力、メディア運用能力を養成することで、文化資源の持つ多面的な価値を理解し、次世代が活用しうる資源として発信できる能力を高め、価値の多様化が進む現代社会において新たな価値を創造できる人材の育成を目指しています。このことを踏まえ、本学が定める

学修成果を達成すべく編成・実施された教育課程において、所定の単位を修得し、以下に示す資質・能力を身に付けた者に学士（文学）の学位を授与します。

- ・地域固有の文化を記録することについて深い関心を持ち、記録のもつ価値についてわかりやすく説明できる。
- ・異文化交流・国際交流に関心を持ち、文化的背景の異なる人に対して、自分の知っている文化について伝えることができる。
- ・情報メディアを通じて、画像・動画や音声を含む文化に関するさまざまな資料を活用しやすい形で発信できる。

## 学修成果

◎熊本大学学士課程「7つの学修成果」

- ①豊かな教養、②確かな専門性、③創造的な知性、④社会的な実践力、⑤グローバルな視野、⑥情報通信技術の活用力、⑦汎用的な知力

### ①豊かな教養

○人間科学コース 社会人間学コース 地域科学コース

東アジア言語文化学コース 欧米言語文化学コース 多言語文化学コース

- ・文化や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。

○歴史資料学コース 超域歴史学コース

- ・歴史や文化・社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。

○現代文化資源学コース

- ・人や社会、自然や生命に関する高い関心と一般的理解を持っている。

### ②確かな専門性

○人間科学コース

- ・人間科学（哲学・心理学）の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・人間科学（哲学・心理学）における研究手法を使用することができる。
- ・人間科学（哲学・心理学）の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

○社会人間学コース

- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）における研究手法を使用することができる。
- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

○地域科学コース

- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）における研究手法を使用することができる。

- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

#### ○歴史資料学コース

- ・歴史学の基本的理論・概念について理解し、説明することができる。
- ・日本史学・考古学の専門的な知識や理論、概念について理解し、説明することができる。
- ・日本史学については古文書・古記録を整理・読解・分析する専門的な能力を持つことができる。
- ・考古学については遺跡・遺構・遺物を調査・整理・分析する専門的な能力を持つことができる。
- ・日本史学・考古学研究に必要な最新動向や情報を、主体的に調査・収集ができる。
- ・日本史学・考古学に関連した専門性の高い学術論文を読解することができる。
- ・日本史学・考古学に関する確かな専門性に基づき、柔軟な発想と論理的思考、説得力のある表現を用いて学術的文章を作成することができる。

#### ○超域歴史学コース

- ・歴史学（アジア史・西洋史・近現代社会思想史）の基本的理論・概念について理解し、説明することができる。
- ・歴史学の専門的な知識や理論、概念について理解し、説明することができる。
- ・歴史学における研究手法を使用することができる。
- ・歴史学研究に必要な最新動向や情報を、主体的に調査・収集ができる。
- ・歴史学に関連した抽象度の高い学術論文を読解することができる。
- ・歴史学研究に必要な外国語文献（英語、漢籍、中国語等）を読解できる。

#### ○東アジア言語文化学コース

- ・東アジアの言語や文学、文化の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・東アジアの言語や文学、文化における研究手法を使用することができる。
- ・東アジアの言語や文学、文化の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

#### ○欧米言語文化学コース

- ・欧米の言語や文学、文化の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・欧米の言語や文学、文化における研究手法を使用することができる。
- ・欧米の言語や文学、文化の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

#### ○多言語文化学コース

- ・比較文学・比較文化、国際文化学の基本的理論・概念について説明することができる。
- ・比較文学・比較文化、国際文化学における研究手法を使用することができる。
- ・文学・文化の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる。

#### ○現代文化資源学コース

- ・現代文化資源学の基本的理論・概念を説明できる。
- ・現代文化資源学における研究手法を使用することができる。
- ・現代文化資源学の最新動向について自律的に学ぶことができる。

- ・現代文化資源に関連する身近な問題に関心を持ち、課題を抽出し、具体的な解決法を提案できる。
- ・地域固有の文化について関心を持ち、資料を収集し、適切な方法で整理して記録することができる。
- ・地域固有の文化の特徴をより広い視点から説明することができる。
- ・文化についての資料を収集する目的をわかりやすく説明した上で、協力者を探し、フィールドワーク調査を実施することができる。

### ③創造的な知性

#### ○人間科学コース

- ・人間科学（哲学・心理学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

#### ○社会人間学コース

- ・社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

#### ○地域科学コース

- ・地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）における知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

#### ○歴史資料学コース

- ・歴史学全般及び日本史学・考古学の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法を提案することができる。

#### ○超域歴史学コース

- ・歴史学（アジア史・西洋史・近現代社会思想史）の知識や思考方法を参照しつつ、自ら課題を発見し、現代社会が直面する諸問題に対して、発言や議論、解決方法を提案することができる。

#### ○東アジア言語文化学コース

- ・東アジアの言語や文学、文化に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

#### ○欧米言語文化学コース

- ・欧米の言語や文学、文化に関する知見を用いて、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

#### ○多言語文化学コース

- ・比較文学・比較文化、国際文化学を応用して、現実の課題を見出し、解決方法を提案することができる。

#### ○現代文化資源学コース

- ・固有の文化を尊重するだけでなく、次の世代が活用しうる文化資源として捉え直すことができる。

### ④社会的な実践力

○人間科学コース

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。

○社会人間学コース

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・社会に参加し、他者との対話や協力をつうじて課題解決に貢献することができる。

○地域科学コース

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・社会に参加し意欲的に適応でき、公共心を持って行動できる。

○歴史資料学コース

- ・柔軟かつ論理的な思考力を基盤に、過去の社会との比較を通じて、現代社会を批判的に検証し、相対化することができる。
- ・文化財の保護・活用及び博物館活動に寄与することができる。

○超域歴史学コース

- ・柔軟かつ論理的な思考力を基盤に、過去の社会との比較を通じて、現代社会を批判的に検証し、相対化することができる。
- ・市民社会の一員として、人権問題や社会的マイノリティにかかる問題に理解と関心を持つことができる。

○東アジア言語文化学コース

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。

○欧米言語文化学コース

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。

○多言語文化学コース

- ・柔軟に発想し、かつ物事を論理的に筋道立てて批判的に検討することができる。
- ・社会に参加し意欲的に適応でき、公共心をもって行動できる。

○現代文化資源学コース

- ・地域固有の文化の現状とその地域の事情を把握した上で、地域固有の文化を将来どのように活用できるかをわかりやすく提案することができる。
- ・多様な価値の存在を認識し、価値観の違いが生み出す問題をどのように回避できるかを提案することができる。

⑤グローバルな視野

○人間科学コース 社会人間学コース 地域科学コース 超域歴史学コース

東アジア言語文化学コース 欧米言語文化学コース

- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。
- ・外国語の文献を読解することができる。

○歴史資料学コース

- ・異なる社会や文化、異文化交流や国際交流に関心と深い理解を持ち、広い視野から物事を理解できる。

### ○多言語文化学コース

- ・異文化理解や国際交流に関心を持ち、広い視野から物事を理解できる。
- ・複数の外国語の文献を読解することができる。
- ・外国語による基本的な対話や簡単なプレゼンテーションを行うことができる。

### ○現代文化資源学コース

- ・地域固有の文化がどのように資源として活用されているかという観点から、諸外国の事情に関心を持ち、情報を収集することができる。
- ・日本の地域固有の文化について、文化的背景の異なる人々がどのような関心を持っているかに注意を払い、適切に情報を発信することができる。

## ⑥情報通信技術の活用力

### ○各コース共通

- ・インターネットを活用して情報の収集や的確な分析及びコミュニケーションを行うことができる。

### ○現代文化資源学コース

- ・デジタルアーカイブの概念について理解し、さまざまなデジタルアーカイブを活用できる。
- ・デジタルアーカイブの仕組みについて理解し、目的に応じたデジタルアーカイブを立案できる。

## ⑦汎用的な知力

### ○人間科学コース

- ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。
- ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。

### ○社会人間学コース

- ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。
- ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。

### ○地域科学コース

- ・相手を理解し、相手に分かりやすく、相手の関心を惹き付ける話し方で、情報や意見を伝えて、よい対人関係を作ることができる。
- ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。
- ・常に向上心を持って自己開発能力、キャリア開発能力を発揮することができる。

### ○歴史資料学コース

- ・相手にわかりやすく、相手の関心を引きつけるような話し方で、意見や情報を伝え、他者と議論やコミュニケーションをすることができる。
- ・豊かな表現力と明解な論理・構成力を用いて、説得力のある明晰な文章を作成することができる。

- ・共通の課題に対してチームで取り組み、共同作業、議論によって、問題解決を図ることができる。

#### ○超域歴史学コース

- ・相手にわかりやすく、相手の関心を引きつけるような話し方で、意見や情報を伝え、相手と議論やコミュニケーションをすることができる。
- ・豊かな表現力と明解な論理・構成力を用いて、説得力のある明晰な文章を作成することができる。
- ・共通の課題に対してチームで取り組み、共同作業（議論）によって、問題解決を図ることができる。

#### ○東アジア言語文化学コース

- ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。
- ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。

#### ○欧米言語文化学コース

- ・相手に分かりやすく、相手の関心を惹きつける話し方で、情報や意見を伝えることができる。
- ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。

#### ○多言語文化学コース

- ・相手を理解し、相手に分かりやすく、相手の関心を惹き付ける話し方で、情報や意見を伝えて、よい対人関係を作ることができる。
- ・明晰な理論の筋道と説得力のある表現を用いて、文章を作成することができる。
- ・常に向上心を持って自己開発能力、キャリア開発能力を発揮することができる。

#### ○現代文化資源学コース

- ・ロジカルシンキング、クリティカルシンキングができる。
- ・向上心を常に持ち、自発的に自らの能力及びキャリアの開発ができる。

### （４）教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

#### ①教育課程編成の方針

文学部は、現代の人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方を論理的に分析できる人材を養成するために、各コースの学問体系を基盤とした教育課程を編成しています。1年次には、幅広い知識や多様な考え方・アプローチ・方法を獲得・理解するための教養教育科目ならびに文学部で開講する各学問領域の基礎的専門科目を全て履修できるようにし、2年次に全てのコースから配属先を選択できるように配置します。3・4年次には、高度な専門的授業科目を置き、将来の進路に即した科目履修を保証するように編成しています。

そのため、後述する各コースが挙げる体系性、段階性、個別化（進路への対応）をもとにカリキュラムを編成しています。

#### ②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えて（分析・考察）、表現する（まとめる）」、それを教員がサポートします。

### ③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

## ○人間科学コース

### ①教育課程編成の方針

体系性：人間科学（哲学・心理学）の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：2年次より履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次には人間科学（哲学・心理学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保障するよう編成しています。

### ②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えて（分析・考察）、表現する（まとめる）」、それを教員がサポートします。

### ③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

## ○社会人間学コース

### ①教育課程編成の方針

体系性：社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には社会人間学（倫理学・社会学・文化人類学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成しています。

### ②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えて（分析・考察）、表現する（まとめる）」、それを教員がサポートします。

### ③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習や実習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

## ○地域科学コース

### ①教育課程編成の方針

体系性：地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には地域科学（地域社会学・民俗学・地理学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成しています。

### ②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えて（分析・考察）、表現する（まとめる）」、それを教員がサポートします。

### ③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

## ○歴史資料学コース

### ①教育課程編成の方針

体系性：日本史学・考古学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：2年次より履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次にはより高度な専門的な授業科目を置き、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成しています。

### ②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えて（分析・考察）、表現する（まとめる）」、それを教員がサポートします。

### ③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

## ○超域歴史学コース

### ①教育課程編成の方針

体系性：アジア史学・西洋史学・近現代社会思想史学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：2年次より履修モデルに即した基礎的な専門科目を、3・4年次にはより高度な専門的な授業科目を置き、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成しています。

#### ②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えて（分析・考察）、表現する（まとめる）」、それを教員がサポートします。

#### ③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

### ○東アジア言語文化学コース

#### ①教育課程編成の方針

体系性：日本語日本文学及び中国語中国文学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には日本語日本文学及び中国語中国文学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保証するよう編成しています。

#### ②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えて（分析・考察）、表現する（まとめる）」、それを教員がサポートします。

#### ③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

## ○欧米言語文化学コース

### ①教育課程編成の方針

体系性：欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には欧米言語文学（英語英米文学・独語独文学・仏語仏文学）の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保證するよう編成しています。

### ②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えて（分析・考察）、表現する（まとめる）」、それを教員がサポートします。

### ③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通した学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

## ○多言語文化学コース

### ①教育課程編成の方針

体系性：比較文学及び国際文化学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3、4年次には比較文学、もしくは国際文化学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を配置し、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保證するよう編成しています。

### ②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えて（分析・考察）、表現する（まとめる）」、それを教員がサポートします。

### ③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

## ○現代文化資源学コース

### ①教育課程編成の方針

体系性：現代文化資源学の学問体系を基盤として教育課程を編成しています。

段階性：基礎的な科目から学年進行に沿って応用的・発展的な科目を学修するよう編成しています。

個別化（進路への対応）：3・4年次には現代文化資源学の専門的な授業科目と卒業論文に至る課題達成型の授業科目を置き、専門職への就職あるいは進学に即した科目履修を保障するよう編成しています。

### ②教育課程における教育・学習方法に関する方針

授業は、知識を伝えることはもちろん、そこから学生自身が何かを感じ取り、問題を見つけるための手掛かりとなることを主眼とします。一人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えて（分析・考察）、表現する（まとめる）」、それを教員がサポートします。

### ③学修成果の評価の方針

カリキュラム・ポリシーに沿って実施される各授業科目の学修成果、取得単位数、GPA 及び外部試験の得点等を可視化することによって、教育課程全体を通じた学修成果の達成状況を測定・評価します。

学修成果の「評価方法・基準」は、開講科目毎にシラバスに示す学修目標等の達成状況から、筆記試験、レポート試験、演習等への積極的な参加等によるものとし、評価は、科目の特性に応じて公正かつ的確に実施します。

## （4）入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

### ◆求める学生像

文学部人文科学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学部の授業を受けることができる学力を有する人。
2. 人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方、現代社会の課題解決に関心が高い人。
3. 専門的知識の修得に意欲を持ち、修得した知識・能力を将来の進路に活かそうとする意欲が高い人。

#### ◆入学者選抜の基本方針

アドミッション・ポリシーに適合する人材を選抜するために、一般選抜及び総合型選抜Ⅰ、学校推薦型選抜Ⅰを実施し、多様な人材を積極的に受け入れることを目指しています。

- ・一般選抜（前期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等の能力」については、大学入学共通テストを課し、高等学校の教育課程の教科・科目に関する基礎的・総合的な学力・能力を評価するとともに、個別学力検査では、国語及び外国語を課し、入学後の学修により密接に関わる教科・科目についてより深い知識と論理的な思考力及び表現力を総合的に評価する。また、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、調査書により評価し、それらの結果から入学者を選抜する。
- ・一般選抜（後期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等の能力」については、大学入学共通テストを課し、高等学校の教育課程の教科・科目に関する基礎的・総合的な学力・能力を評価するとともに、個別学力検査では、小論文を課し、入学後の学修により密接に関わる教科・科目についてより深い知識と論理的な思考力及び表現力を総合的に評価する。また、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、調査書により評価し、それらの結果から入学者を選抜する。
- ・学校推薦型選抜Ⅰ（大学入学共通テストを課さない）では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、出願書類による審査、小論文及び面接を課し、学力・能力、勉学意欲及び志望動機を総合的に評価し、それらの結果から入学者を選抜する。
- ・総合型選抜Ⅰ（私費外国人留学生入試）では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、日本学生支援機構が実施する日本留学試験、小論文及び面接を課し、本学入学後の学修に必要な基礎的知識及び日本語能力を評価するとともに、論理的な思考力、表現力、勉学意欲及び志望動機を総合的に評価し、それらの結果から入学者を選抜する。

#### （５）３つのポリシーの関係性

文学部のディプロマ・ポリシーでは、人文・社会科学諸分野を横断する包括的・総合的な教育・研究を展開し、「創造的な知性をもって自ら課題を発見し解決する実践的な能力及び現代を生きる人間に必要なグローバルな視野と市民的公共心を備え、他者と共有、共感しあい、社会や心の豊かさを探求することができる」人材を育成することを目的としている。この目的を達成するため、カリキュラム・ポリシーでは、現代の人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方を論理的に分析できる人材を養成するために、各コースの学問体系を基盤と

した教育課程を編成している。これらのことから、アドミッション・ポリシーでは、上記のように、受験生に対して専門的知識の修得に意欲を持ち、修得した知識・能力を将来の進路に活かそうとする意欲が高く、人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方、現代社会の課題解決に関心が高い人を求めている。

【資料2：文学部3つのポリシーの関係性】

## 2. 学部・学科等の特色

設置しようとする本学科は、次のような特色を有する。

- ・系統的かつ柔軟で発展性のある指導

人文科学科に9コースを置き、21という多彩な教育研究領域を有している。1年次に文学部を構成する学問分野を広く学んだうえで、2年生進級時に希望コースを選択し、各コースに用意された教育研究領域の履修モデルを参考にしながら、自分の関心、学習動機に応じた学習計画を立てることができる。

- ・現代社会に対応した実践的教育

授業やフィールドワークを通し、社会についての問題関心を深め、実践的な知識や経験を積むことができる。人文社会系の専門分野で活躍するとともに、科学・技術の様々な分野の知識や専門家をつなぎ、それらを編成し直して、新しい価値を創造できる人材を育成する。

- ・個々の学生の関心に応じる少人数教育

各コースに用意された教育研究領域の履修モデルにおいては、教員1人あたり学生4～6名程度とし、1履修モデルあたり8～12名程度という少人数教育の環境を構築し、学生1人ひとりが「感じ（問題発見）、自ら調べ（資料収集・調査）、考えて（分析・考察）、まとめる（表現）」、それを教員がサポートする。

- ・総合的なメディア・リテラシー教育

整備された学内のコンピュータやネットワーク環境を活用し情報機器等の利用法を学修するとともに、文章を読み解き、自らの見解を筋道立てて書いたり、プレゼンテーションしたりする技能を修得するなど、総合的なリテラシーの育成を目指したカリキュラムを構築している。

## 3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

### (1) 学科の名称及び学位の名称

学部・学科の名称：文学部人文科学科 (Department of Humanities, Faculty of Letters)

学位の名称：学士（文学） (Bachelor of Letters)

### (2) 組織名称・学位名称を当該名称とする理由

グローバル化が進む現代において、国立大学の教育と研究は人類社会の持続的発展に重要な役割を果たすことが求められている。特に人文社会科学の高度化と人材育成が人類の未来のあり方を考えるうえで不可欠であるため、人文・社会科学諸分野を横断する包括的・総合的な教育・研究を展開し、人文・社会科学の学問を通して、他者と共有、共感しあい、社会や心の豊かさを探求することを目的として、学生に人間・社会・文化に関わる幅広い素養を身につけさせるために、多様な興味に応じた柔軟なコース選択と分野横断的な学びを提供することとし、現行の4学科を統合し、1学科体制への改組を行う。

具体的には、これまで、文学部は、「総合人間学科」、「歴史学科」、「文学科」、「コミュニケーション情報学科」の4学科で構成され、豊かな人間性と高度な専門性および総合的な視野を養うべく、少人数による柔軟で発展性のある指導、実践的教育に重きをおき、文頭に記載した言語・文学の定義に即した、人間・社会・文化に関わる幅広い領域にわたって教育を展開してきた。このたびの改組により、従来の4学科から1学科となるが、改組後も4学科体制時の専門コース及び履修プログラム等の教育課程及び教育研究分野が踏襲されることから、学科の名称は、人間・社会・文化に関わる幅広い領域を網羅した名称として「人文科学科」とする。

また、「人文科学科」という名称は、他大学にも複数先行例があることから、一般的に浸透した名称と考えられる。

なお、学部・学科の名称の英語表記についても、上記理由により、従来の4学科を1学科に統合し、人間・社会・文化に関わる幅広い領域を網羅した学科となるため、グローバルな観点からも「人文科学科」として広く通用する英語表記として、“Humanities”を用いて、学部・学科名称については、“Department of Humanities, Faculty of Letters”とする。

学位の名称については、前述のとおり、改組後も4学科体制時の専門コース及び履修プログラム等の教育課程及び教育研究分野が踏襲されることから、学位の名称も改組前と同様の「学士(文学)」とする。

また、学位の名称の英語表記についても、上記と同様の理由及びグローバルな観点からも通用性のある学位名称として、改組前と同様の“Bachelor of Letters”とする。

#### **4. 教育課程の編成の考え方及び特色**

##### (1) 教育課程の編成と考え方及び特色

<熊本大学文学部の理念>

人間の文化的・社会的営為に関わるそれぞれの専門領域を広く学習させ、これらを通じて人間と社会・文化について深い洞察力、総合的な判断力・応用力を養い、地域文化を担い国際社会に寄与する人間を育成する。

このような理念に基づき、「人文科学科」では、下記の素養をもつ人材の育成を目指している。

- ・人文・社会科学諸分野を横断する包括的・総合的な教育・研究を展開し、「創造的な知性をもって自ら課題を発見し解決する実践的な能力及び現代を生きる人間に必要なグローバルな視

野と市民的公共心を備え、他者と共有、共感しあい、社会や心の豊かさを探求することができる」人材

そのために、カリキュラム・ポリシーを設定し、特定分野の専門知識や技術を身につけるだけでなく、今を生きる人として求められる「総合力」を涵養することを重視し、幅広い知識や多様な考え方・アプローチ・方法を獲得・理解するための教養教育を学びながら、それぞれの専門領域（研究領域）に次第に進んでいくカリキュラムを構築している。

## （2）科目区分の設定及び理由

カリキュラム・ポリシーに基づき、科目区分は、「教養教育科目」と「専門教育科目」の2つに分けられる。さらに「専門教育科目」は、概論や概説といった基礎的な知識を学修する「専門基礎科目」と「専門科目」に分けられる。「専門科目」は、各教育研究領域の技能を修得する基礎演習、講読等の「基盤科目」と、より高度な演習、課題研究等に加え、教育研究領域の技能を修得する「展開科目」の2つに分けられる。

「教養教育科目」、「専門教育科目」とも、本学で定めた熊本大学学士課程「7つの学修成果」に基づき、「豊かな教養」、「確かな専門性」、「創造的な知性」、「社会的な実践力」、「グローバルな視野」、「情報通信技術の活用力」、「汎用的な知力」といった7つの学習能力において、どの能力育成に寄与するかを明確にしたうえで設計している。

その他、教員免許取得等に関する「資格関連科目」を提供している。

### （ア）教養教育

教養教育科目は、多様で俯瞰的な視野・視点で物事を理解し考える素養や力を養うとともにグローバル社会、情報社会を生き抜くための能力を身につけることを目的として、必修外国語科目、情報科目、自由選択外国語科目、リベラルアーツ科目、現代教養科目、Multidisciplinary Studies、キャリア科目、開放科目、体育・スポーツ科学科目、日本国憲法科目で構成される。

文学部人文科学科の学生は、必修外国語科目の英語A-1・A-2・B-1・B-2・C-1・C-2・eの7科目7単位を必修科目として、ドイツ語A-1・A-2・B-1・B-2・C-1・C-2、フランス語A-1・A-2・B-1・B-2・C-1・C-2、中国語A-1・A-2・B-1・B-2・C-1・C-2、コリア語A-1・A-2・B-1・B-2・C-1・C-2のうち、言語単位で6科目6単位を選択必修科目として履修する。また、情報科目のICTリテラシー、DSリテラシーの2科目4単位を必修科目として履修する。

あわせて、自由選択外国語科目、リベラルアーツ科目、現代教養科目、Multidisciplinary Studies、キャリア科目、開放科目、体育・スポーツ科学科目、日本国憲法科目から16単位以上を履修する。

### （イ）専門教育科目

#### ①専門基礎科目

1年次には、人文・社会科学の基礎的な知識を幅広く学ぶ概論や概説、入門の授業科目に加え、パラグラフ・ライティングと呼ばれる汎用的な文章や学術的な文章の作成技能を育成する「文章作成演習」を配置する。2年次には、将来のキャリアについて考えを深め、自身のキャ

リアを設計できることを目的とした「キャリア支援」など、専門分野以外にも視野を広げる科目を配置している。

## ②専門科目

### [基盤科目]

2年次以降に、各コースの専門を深める入口として、各コースの教育研究領域にフォーカスした概論、概説の授業科目や共同作業等を通じて教育研究領域の技能を修得する演習、実習の授業科目、さらには専門書や資料等を読み解く「講読」と呼ばれる授業科目を配置している。

### [展開科目]

各コースの専門性を深化させ、より高度な知識・技能を修得する演習、課題研究の授業科目や各コースの特性に応じてフィールドワークなどの実習や実験に関する授業科目を配置している。また、教員自身の専門分野における最新の研究動向や成果を解説する「特殊講義」を配置している。

## ③資格関連科目

上記①～②に加え自由科目（卒業要件に算入しない科目）として、中学校や高等学校を対象とした教員免許、博物館での資料収集・保管・展示および調査研究に従事するための学芸員資格、心理的な支援や心の健康に関する業務を行う公認心理師資格、世論や市場動向を始めとした社会調査に関する調査・分析能力に関する社会調査士資格に関する科目を配置している。

## (4) 主要授業科目の設定の考え方

養成する人材像及びディプロマ・ポリシーを踏まえた上で、各コースにおいて定める卒業要件を満たすために当該コースにおいて修得する分野に応じた知識・能力に基づき設定した専門基礎科目及び専門科目の基盤科目を主要授業科目と位置づける。

## (5) 単位時間数について

授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法(講義、演習、実験、実習又は実技の授業)に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲での授業をもって1単位とする。

## (6) 1年間の授業時間及び各授業科目の授業期間について

1時限の授業の標準時間は90分とし、1学年の学期区分は前学期及び後学期からなる2学期とし、各学期の授業期間は15週とすることにより、十分な教育効果を確保する。

## 5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

### (1) 教育方法・履修指導方法

文学部人文科学科では、1年次には、幅広い知識や多様な考え方・アプローチ方法を獲得・理解するための教養教育科目ならびに各学問領域の基礎的な専門科目を学修し、2年次には、希望するコースに所属し、コースにおける専門基礎科目、専門科目（基盤科目、展開科目）を学修する。3年次以降は、2年次から学修する科目に加えて卒業論文の執筆に向けた課題研究を行うなど専門性を深めていく。

具体的には、2年次に専門コースへ配属することを基本とし、1年次の幅広い学修を踏まえた上で、原則、学生の希望と1年次における学修状況に応じて全てのコースから配属先を決定する柔軟なコース選択と分野横断的な学びを提供する。なお、心理学履修モデルに限っては、公認心理師養成にかかる実習先の確保の関係上、厳格な定員管理を行う。

2年次のコース選択のためにコース毎に設定する履修方法を提示し、1年次において各コースの基礎的な知識を学ぶ以下の概論や概説、入門の授業科目（20科目40単位）から12単位以上を履修する。また、時間割上、学生が全ての授業科目を履修できるよう配置するなど、幅広い学問分野の基礎を学べる履修体系としコース選択の幅を狭めないようにする。

#### 《専門基礎科目》

哲学概論Ⅰ、心理学概論、倫理学概論、社会学概論、文化人類学概論、地域社会学概論Ⅰ、民俗学概論Ⅰ、地理学概論、史学概論、日本史概説Ⅰ、考古学概説Ⅰ、アジア史概説Ⅰ、西洋史概説Ⅰ、文化史概説Ⅰ、日本語日本文学入門、中国語圏文化論、英語圏文化論、ドイツ語圏・フランス語圏文化論、比較文学・国際文化学入門、現代文化資源学入門  
（各2単位） 計20科目40単位

各コース配属となる2年次以降は、コース毎に設定する履修方法に基づき、各コースの専門性に応じた授業科目を履修し、卒業論文の執筆に向けた課題研究を行うなどそれぞれの学問分野の専門性を深化させ、より高度な知識・技能を修得する。

なお、各学生は、担任教員や教務担当教員による履修指導のもと、各コースの履修方法に基づき、履修する科目と育成すべき能力の対応を行った上で、履修科目計画を作成する。

また、本学部では1年を前期・後期に区分した Semester 制を基本としたカリキュラム編成としている。単位と配当年次については、カリキュラム・ポリシーを踏まえ、前述の4. で述べた教育課程編成の考え方及び上述に基づき、文学部規則により設定する。1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、2単位の講義科目であれば、90時間の学修が必要な内容で構成し、授業は30時間分（2時間×15コマ）とし、60時間分相当の事前・事後学修（課題等含む）を課し、個々の科目の目標を実現させるために適切な方法で授業を行う。

各コースのディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと教育課程（授業科目）の関係性については、カリキュラムツリー【資料3】のとおりである。

### (3) 履修モデル

それぞれのコースに対応した履修モデルを設定して、これらの履修モデルを学生に提示し、前述の学生指導によって学生は各履修モデルに準じた科目を履修していく。

【資料4：履修モデル】

(4) 教育の質、カリキュラムの体系を担保するための制度

本学では、教育の質、カリキュラムの体系を担保するため、以下の制度を設けている。

<GPA (Grade Point Average) >

本学では、教育課程を通じての学習到達度を客観的に評価することにより、教育の質保証を行うとともに、きめ細やかな修学指導等に資することを目的として GPA 制度を導入している。本学の GPA は、各科目にあらかじめ設定されている単位数に当該科目の成績に応じて GP (グレード・ポイント) を乗じ、これらの合計を履修登録単位数で除して得られる数値をいう。

【資料5：熊本大学における GPA 制度について】

<科目ナンバリング>

本学では、学習の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示することを目的とし、授業科目にナンバーを付している。

【資料6：熊本大学科目ナンバリング】

(5) 卒業要件

卒業要件については、教養教育科目 33 単位以上、専門教育科目 84 単位以上、合計 124 単位以上の修得が要件となる (表 1)。

教養教育科目については、必修修外国語科目 13 単位、情報科目 (ICT リテラシー、DS リテラシー) 4 単位を合わせて 17 単位、自由選択外国語科目、リベラルアーツ科目、現代教養科目、Multidisciplinary Studies、キャリア科目、開放科目、体育・スポーツ科学科目、日本国憲法科目から 16 単位以上を修得する。

専門教育科目は、専門基礎科目 14 単位以上、専門科目から 70 単位以上を修得する。

各コースの履修方法については、以下 (6) に示す。

表 1

区分		単位数
教養教育 科目	必修外国語科目 情報科目	17 単位
	自由選択外国語科目 リベラルアーツ科目 現代教養科目 Multidisciplinary Studies キャリア科目 開放科目 体育・スポーツ科学科目 日本国憲法科目	16 単位 以上

専門教育	専門基礎科目	14 単位以上
科目	専門科目（基盤科目、展開科目）	70 単位以上

(6) 各コースの履修方法

【教養教育科目：33 単位以上】

全コース共通

1) 必修外国語科目（既修）7 単位

2) 必修外国語科目（初修）6 単位

[履修方法] ドイツ語 A-1・A-2・B-1・B-2・C-1・C-2、フランス語 A-1・A-2・B-1・B-2・C-1・C-2、中国語 A-1・A-2・B-1・B-2・C-1・C-2、コリア語 A-1・A-2・B-1・B-2・C-1・C-2 のうち、言語単位で履修

3) 情報科目 4 単位

4) 自由選択外国語科目、リベラルアーツ科目、現代教養科目、Multidisciplinary Studies キャリア科目、開放科目、体育・スポーツ科学科目、日本国憲法科目から 16 単位以上

【専門教育科目：84 単位以上】

1-1 人間科学コース（哲学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84 単位以上を履修する。

< 1～2 年次 >

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2 単位）及び哲学概論 I（2 単位）を履修する。この他に 1～2 年次にかけて、専門基礎科目から 10 単位以上を履修し、合計 14 単位以上 を履修する。

< 2～4 年次 >

哲学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2 年次に人間科学基礎演習、哲学概論 II A、哲学概論 II B、論理学、哲学演習 I A1～I A3 及び哲学演習 I B1～I B3（各 2 単位）から計 10 単位以上 を履修
- ・展開科目のうち、2～3 年次に哲学特殊講義 A～G 及び哲学演習 II A1～II D3（各 2 単位）から計 12 単位以上 を履修
- ・展開科目のうち、3 年次に課題研究 I（2 単位）及び課題研究 II（2 単位）計 4 単位 を履修
- ・展開科目のうち、4 年次に課題研究 III（2 単位）及び卒業論文（8 単位）計 10 単位 を履修
- ・展開科目のうち、2～4 年次に神経・生理心理学、心理学特殊講義 A～C、人間科学上級演習 A 1～B 2（各 2 単位）から計 4 単位以上 を履修

1-2 人間科学コース（心理学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84 単位以上を履修する。

< 1～2 年次 >

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2 単位）及び心理学概論（2 単位）を履修する。この他に 1～2 年次にかけて、専門基礎科目から 10 単位以上を履修し、合計 14 単位以上 を履修する。

< 2～4 年次 >

心理学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・ 基盤科目のうち、2 年次に人間科学基礎演習、知覚・認知心理学、心理学研究法、心理学統計法及び心理学演習 I（各 2 単位）計 10 単位 を履修
- ・ 展開科目のうち、2～3 年次に神経・生理心理学、心理学実験 I・II 及び心理学演習 II A - 1～II C - 1（各 2 単位）から計 16 単位以上 を履修
- ・ 展開科目のうち、3 年次に課題研究 I（2 単位）及び課題研究 II（2 単位）計 4 単位 を履修
- ・ 展開科目のうち、4 年次に課題研究 III（2 単位）及び卒業論文（8 単位）計 10 単位 を履修

2-1 社会人間学コース（倫理学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84 単位以上を履修する。

< 1～2 年次 >

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2 単位）及び倫理学概論（2 単位）を履修する。この他に専門基礎科目のうち、社会学概論、文化人類学概論、哲学概論 I、心理学概論、地域社会学概論 I、民俗学概論 I 及び地理学概論（各 2 単位）から 4 単位以上履修する。また、1～2 年次にかけて、前述以外の専門基礎科目から 6 単位以上を履修し、合計 14 単位以上 を履修する。

< 2～4 年次 >

倫理学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・ 基盤科目のうち、2 年次に社会調査法概説及び社会人間学演習（各 2 単位）を履修する。また、社会人間学特殊講義 A - I～B - VI（各 2 単位）から 10 単位以上履修し、合計 14 単位以上 を履修する。
- ・ 展開科目のうち、3 年次に倫理学演習 A - I～B - II 及び倫理学応用演習 A - I～B - II（各 2 単位）から計 8 単位以上 を履修
- ・ 展開科目のうち、3 年次に課題研究 I（2 単位）及び課題研究 II（2 単位）計 4 単位 を履修
- ・ 展開科目のうち、4 年次に課題研究 III（2 単位）及び卒業論文（8 単位）計 10 単位 を履修
- ・ 展開科目のうち、3～4 年次に社会調査実習 I・II、社会学演習 A - I～C - IV、現代社会分析演習、文化人類学演習 I～IV、文化人類学応用演習 I～IV 及び社会人間学応用演習 A - I～B（各 2 単位）から計 6 単位以上 を履修

2-2 社会人間学コース（社会学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84 単位以上を履修する。

< 1～2 年次 >

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2 単位）及び社会学概論（2 単位）を履修する。この他に専門基礎科目のうち、倫理学概論、文化人類学概論、哲学概論 I、心理学概論、地域社会学概論 I、民俗学概論 I 及び地理学概論（各 2 単位）から 4 単位以上履修する。また、1～2 年次にかけて、前述以外の専門基礎科目から 6 単位以上を履修し、合計 14 単位以上 を履修する。

< 2～4 年次 >

社会学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に社会調査法概説及び社会人間学演習（各2単位）を履修する。また、社会人間学特殊講義A-I～B-VI（各2単位）から10単位以上履修し、合計14単位以上を履修する。
- ・展開科目のうち、3～4年次に社会学演習A-I～C-IV（各2単位）から計8単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究I（2単位）及び課題研究II（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究III（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、3～4年次に社会調査実習I・II、倫理学演習A-I～B-II、倫理学応用演習A-I～B-II、現代社会分析演習、文化人類学演習I～IV、文化人類学応用演習I～IV及び社会人間学応用演習A-I～B（各2単位）から計6単位以上を履修

### 2-3 社会人間学コース（文化人類学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）及び文化人類学概論（2単位）を履修する。この他に専門基礎科目のうち、倫理学概論、社会学概論、哲学概論I、心理学概論、地域社会学概論I、民俗学概論I及び地理学概論（各2単位）から4単位以上履修する。また、1～2年次にかけて、前述以外の専門基礎科目から6単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

文化人類学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に社会調査法概説及び社会人間学演習（各2単位）を履修する。また、社会人間学特殊講義A-I～B-VI（各2単位）から10単位以上履修し、合計14単位以上を履修する。
- ・展開科目のうち、3～4年次に文化人類学演習I～IV及び文化人類学応用演習I～IV（各2単位）から計8単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究I（2単位）及び課題研究II（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究III（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、3～4年次に社会調査実習I・II、倫理学演習A-I～B-II、倫理学応用演習A-I～B-II、社会学演習A-I～C-IV、現代社会分析演習及び社会人間学応用演習A-I～B（各2単位）から計6単位以上を履修

### 3-1 地域科学コース（地域社会学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）及び地域社会学概論I（2単位）を履修する。また、民俗学概論I、地理学概論、哲学概論I、心理学概論、倫理学概論、社会学概論及び文化人類学概論（各2単位）から4単位以上履修する。また、1～2年次にかけて前述以外の専門基礎科目から6単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

地域社会学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に社会調査法概説、地域社会学概論Ⅱ、地域社会分析演習（各2単位）計6単位を履修し、地理調査法概説、民俗学概論Ⅱ、人文地理学、自然地理学Ⅰ、地誌学、基層文化論演習及び地域文化論演習から計6単位以上を履修し、合計12単位以上を履修する。
- ・展開科目のうち、3年次に社会調査実習A1～A2（各2単位）、地域科学演習A1～A2（各4単位）から計12単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～4年次に地域科学特殊講義A1～C2、地域科学応用演習、及び社会学演習A-I～C-Ⅲ（各2単位）から計2単位以上を履修

### 3-2 地域科学コース（民俗学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）及び民俗学概論Ⅰ（2単位）を履修する。また、地域社会学概論Ⅰ、地理学概論、哲学概論Ⅰ、心理学概論、倫理学概論、社会学概論及び文化人類学概論（各2単位）から4単位以上履修する。また、1～2年次にかけて前述以外の専門基礎科目から6単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

民俗学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に社会調査法概説、民俗学概論Ⅱ、基層文化論演習、地域文化論演習（各2単位）計8単位を履修し、地域社会学概論Ⅱ、地理調査法概説、人文地理学及び自然地理学Ⅰから計4単位以上履修し、合計12単位以上を履修する。
- ・展開科目のうち、3年次に社会調査実習B1～B2（各2単位）及び地域科学演習B1～B2（各4単位）から計12単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～4年次に地域科学特殊講義A1～C2及び地域科学応用演習（各2単位）から計2単位以上を履修

### 3-3 地域科学コース（地理学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）及び地理学概論（2単位）を履修する。また、地域社会学概論Ⅰ、民俗学概論Ⅰ、哲学概論Ⅰ、心理学概論、倫理学概論、社会学概論及び文化人類学概論（各2単位）から4単位以上履修する。また、1～2年次にかけて前述以外の専門基礎科目から6単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

地理学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に地理調査法概説、人文地理学、自然地理学Ⅰ（各2単位）計6単位を履修し、社会調査法概説、地域社会学概論Ⅱ、地域社会分析演習、民俗学概論Ⅱ、地誌学、基層文化論演習及び地域文化論演習から計6単位以上履修し、合計12単位以上を履修する。
- ・展開科目のうち、2～3年次に地理調査実習1・2（各2単位）、地域科学演習C1～4（各4単位）から計20単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～4年次に地域科学特殊講義A1～A2、地域科学特殊講義B1～B4、地域科学特殊講義C1～C2、地域分析論演習、自然地理学Ⅱ（各2単位）から計2単位以上を履修

#### 4-1 歴史資料学コース（日本史学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習、史学概論、日本史概説Ⅰ及び考古学概説Ⅰ（各2単位）計8単位を履修する。この他に1～2年次にかけて専門基礎科目から6単位以上履修する。また、1年次に基盤科目から、博物館概論（2単位）を履修し、合計16単位以上を履修する。

<2～4年次>

日本史学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に博物館資料論2単位を履修し、日本史概説Ⅱ、歴史資料学実習A-I～B-Iから計8単位以上履修し、合計10単位以上を履修する。
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に歴史資料学演習A-I～IV（各2単位）及び歴史資料学野外実習A（4単位）の計12単位以上を履修する。また、歴史資料学特殊講義A-I～A-VI（各2単位）から計8単位以上を履修し、歴史資料学演習B-I～B-IV、歴史資料学特殊講義B-I～B-VII（各2単位）及び歴史資料学野外実習B-I～II（各4単位）から計4単位以上を履修し、合計24単位以上を履修する。

#### 4-2 歴史資料学コース（考古学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習、史学概論、日本史概説Ⅰ及び考古学概説Ⅰ（各2単位）計8単位を履修する。この他に1～2年次にかけて専門基礎科目から6単位以上を履修する。また、1年次に基盤科目から、博物館概論（2単位）を履修し、合計16単位以上を履修する。

<2～4年次>

考古学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に博物館資料論（2単位）2単位を履修し、考古学概説Ⅱ、歴史資料学実習A-I～B-II（各2単位）から計8単位以上履修し、合計10単位以上を履修する。
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～4年次に歴史資料学演習B-I～B-IV（各2単位）及び歴史資料学野外実習B-I～II（各4単位）の計16単位以上を履修し、歴史資料学演習A-I～IV、歴史資料学特殊講義A-I～VI（各2単位）及び歴史資料学野外実習A（4単位）から計4単位以上、歴史資料学特殊講義B-I～VII（各2単位）から計4単位以上を履修し、合計24単位以上を履修する。

#### 5-1 超域歴史学コース（アジア史学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習、史学概論、アジア史概説Ⅰ、西洋史概説Ⅰ及び文化史概説Ⅰ（各2単位）計10単位を履修する。この他に1～2年次にかけて専門基礎科目から4単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

アジア史学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次にアジア史概説Ⅱ、超域歴史学基礎演習C及び超域歴史学講読C（各2単位）計6単位を履修する。また、この他に基盤科目（各2単位）から4単位以上履修し、合計10単位以上履修する。
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に超域歴史学演習C-I～IV（各2単位）から4単位以上、超域歴史学特殊講義C-I～III（各2単位）から4単位以上、この他に展開科目（各2単位）から8単位以上履修し、合計16単位以上を履修する。

#### 5-2 超域歴史学コース（西洋史学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習、史学概論、アジア史概説Ⅰ、西洋史概説Ⅰ及び文化史概説Ⅰ（各2単位）計10単位を履修する。この他に1～2年次にかけて専門基礎科目から4単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

西洋史学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に西洋史概説Ⅱ（2単位）を履修し、超域歴史学基礎演習D-I～II（各2単位）から2単位以上、超域歴史学講読D-I～II（各2単位）から2単位以上

履修する。この他に基盤科目（各 2 単位）から 4 単位以上履修し、合計 10 単位以上履修する。

- ・展開科目のうち、3 年次に課題研究 I（2 単位）及び課題研究 II（2 単位）計 4 単位を履修
- ・展開科目のうち、4 年次に課題研究 III（2 単位）及び卒業論文（8 単位）計 10 単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3 年次に超域歴史学演習 D－I～VII（各 2 単位）から計 4 単位以上、超域歴史学特殊講義 D－I～IV（各 2 単位）から 2 単位以上履修する。この他に展開科目（各 2 単位）から計 10 単位以上を履修し、合計 16 単位以上履修する。

### 5-3 超域歴史学コース（文化史学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84 単位以上を履修する。

< 1～2 年次 >

専門基礎科目のうち、文章作成演習、史学概論、アジア史概説 I、西洋史概説 I 及び文化史概説 I（各 2 単位）計 10 単位を履修する。この他に 1～2 年次にかけて専門基礎科目から 4 単位以上を履修し、合計 14 単位以上を履修する。

< 2～4 年次 >

文化史学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2 年次に文化史概説 II（2 単位）を履修し、超域歴史学基礎演習 E－I～II（各 2 単位）から 2 単位以上、超域歴史学講読 E－I～II（各 2 単位）から 2 単位以上履修する。この他に基盤科目（各 2 単位）から 4 単位以上履修し、合計 10 単位以上履修する。
- ・展開科目のうち、3 年次に課題研究 I（2 単位）及び課題研究 II（2 単位）計 4 単位を履修
- ・展開科目のうち、4 年次に課題研究 III（2 単位）及び卒業論文（8 単位）計 10 単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3 年次に超域歴史学演習 E－I～IV（各 2 単位）から 4 単位以上、超域歴史学特殊講義 E－I～IV（各 2 単位）から 4 単位以上履修する。この他に展開科目（各 2 単位）から 8 単位以上履修し、合計 16 単位以上履修する。

### 6-1 東アジア言語文化コース（日本語日本文学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84 単位以上を履修する。

< 1～2 年次 >

専門基礎科目のうち、1 年次に文章作成演習（2 単位）を履修する。この他に 1～2 年次にかけて、専門基礎科目（各 2 単位）から 12 単位以上を履修し、合計 14 単位以上を履修する。

< 2～4 年次 >

日本語日本文学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2 年次に中国文学史 I（2 単位）を履修する。日本語学概論 I・II、日本文学概論 I・II（各 2 単位）から計 8 単位を履修し、合計 10 単位を履修する。
- ・展開科目のうち、3 年次に課題研究 I（2 単位）計 2 単位を履修
- ・展開科目のうち、4 年次に課題研究 II、課題研究 III（2 単位）及び卒業論文（8 単位）計 12 単位を履修

- ・展開科目のうち、2～3年次に日本語学基礎演習Ⅰ～Ⅱ、日本語学演習Ⅰ～Ⅱ、日本語学特殊講義Ⅰ～Ⅲ、日本文学基礎演習Ⅰ～Ⅱ、日本文学演習Ⅰ～Ⅲ、日本文学特殊講義Ⅰ～Ⅲ（各2単位）から計 20 単位以上 を履修

## 6-2 東アジア言語文化コース（中国語中国文学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84 単位以上を履修する。

< 1～2 年次 >

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2 単位）を履修する。この他に 1～2 年次にかけて、専門基礎科目（各 2 単位）から 12 単位以上を履修し、合計 14 単位以上 を履修する。

< 2～4 年次 >

中国語中国文学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2 年次に中国文学史Ⅰ（2 単位）を履修する。中国文学史Ⅱ、中国語学概論、中国語会話、中国語作文（各 2 単位）から計 8 単位を履修し、合計 10 単位 を履修する。
- ・展開科目のうち、3 年次に課題研究Ⅰ（2 単位）計 2 単位 を履修
- ・展開科目のうち、4 年次に課題研究Ⅱ、課題研究Ⅲ（2 単位）及び卒業論文（8 単位）計 12 単位 を履修
- ・展開科目のうち、2～3 年次に中国語中国文学演習 A1～C4、中国語中国文学特殊講義Ⅰ～Ⅲ（各 2 単位）から計 20 単位以上 を履修

## 7-1 欧米言語文化学コース（英語英米文学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84 単位以上を履修する。

< 1～2 年次 >

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2 単位）を履修する。この他に 1～2 年次にかけて、専門基礎科目から 12 単位以上を履修し、合計 14 単位以上 を履修する。

< 2～4 年次 >

英語英米文学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2 年次に英語学概論、英文学史Ⅰ及び英会話並びに 3 年次開講の英文学史Ⅱ及び英作文（各 2 単位）から計 8 単位以上、独文学史及び仏文学史（各 2 単位）から 2 単位以上の合計 10 単位以上 を履修
- ・展開科目のうち、3 年次に課題研究Ⅰ（2 単位）計 2 単位 を履修
- ・展開科目のうち、4 年次に課題研究Ⅱ、課題研究Ⅲ（2 単位）及び卒業論文（8 単位）計 12 単位 を履修
- ・展開科目のうち、2～3 年次に英語学演習 A～B、英文学演習 A～B、米文学演習 A～B、英文学特殊講義、米文学特殊講義 A～B（各 2 単位）から計 16 単位以上 を履修

## 7-2 欧米言語文化学コース（独語独文学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84 単位以上を履修する。

< 1～2 年次 >

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）を履修する。この他に1～2年次にかけて、専門基礎科目から12単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

独語独文学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に独語学概論、独文学史、独語独文学基礎演習A1～A2（各2単位）の計8単位、英文学史Ⅰ、仏文学史及び3年次開講の英文学史Ⅱ（各2単位）から2単位以上の合計10単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）計2単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅱ、課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計12単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に独語独文学演習A1～A2、独語独文学演習B1～B2、独語独文学特殊講義A～C、ドイツ語圏文化論演習（各2単位）の計16単位を履修

### 7-3 欧米言語文化学コース（仏語仏文学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）を履修する。この他に1～2年次にかけて、専門基礎科目から12単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

仏語仏文学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に仏文学史、仏語仏文学基礎演習A1～A2（各2単位）の計6単位を履修し、英文学史Ⅰ、英文学史Ⅱ、独文学史（各2単位）から2単位以上、英会話、独語学概論、独語独文学基礎演習A1～A2及び3年次開講の英作文（各2単位）から2単位以上履修し、合計10単位以上を履修する。
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）2単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅱ（2単位）、課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計12単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に仏語仏文学演習A1～A2、仏語仏文学演習B1～B4、仏語仏文学演習C1～C2、仏語仏文学特殊講義A～B、フランス語圏文化論演習（各2単位）から計16単位以上を履修

### 8-1 多言語文化学コース（比較文学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）を履修する。この他に1～2年次にかけて、専門基礎科目から12単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

比較文学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に比較文学概論Ⅰ、国際文化学概論（各2単位）の計4単位を履修し、比較文学概論Ⅱ、比較文学基礎演習Ⅰ～Ⅲ（各2単位）から6単位以上の合計10単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に世界文学論、比較文学演習Ⅰ～Ⅱ、比較文学特殊講義Ⅰ～Ⅱ、国際文化学演習Ⅰ～Ⅱ、国際文化学特殊講義Ⅰ、日本文学特殊講義Ⅰ～Ⅲ、英文学特殊講義、米文学特殊講義A～B、独語独文学演習B1～B2、独語独文学特殊講義A～C、仏語仏文学演習B1～B4、仏語仏文学特殊講義A～B（各2単位）から計16単位以上を履修

## 8-2 多言語文化学コース（国際文化学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）を履修する。この他に1～2年次にかけて、専門基礎科目から12単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

国際文化学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に比較文学概論Ⅰ、国際文化学概論（各2単位）の計4単位を履修し、比較文学概論Ⅱ、比較文学基礎演習Ⅰ、国際文化学基礎演習Ⅰ～Ⅱ（各2単位）から6単位以上の合計10単位以上を履修
- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に世界文学論、比較文学演習Ⅰ、比較文学特殊講義Ⅰ、国際文化学演習Ⅰ～Ⅲ、外国語演習A1～C2、国際文化学特殊講義Ⅰ～Ⅲ、中国語中国文学演習C2、英語学演習A、独語独文学演習B1、独語独文学特殊講義C、仏語仏文学演習B1～B4（各2単位）から計16単位以上を履修

## 9-1 現代文化資源学コース（現代文化資源学）

以下の専門基礎科目、基盤科目、展開科目の単位数を合計し、84単位以上を履修する。

<1～2年次>

専門基礎科目のうち、文章作成演習（2単位）及び現代文化資源学入門（2単位）を履修する。この他に1～2年次にかけて、専門基礎科目から10単位以上を履修し、合計14単位以上を履修する。

<2～4年次>

現代文化資源学の専門分野として、次のとおり履修する。

- ・基盤科目のうち、2年次に現代文化資源学基礎演習Ⅰ～Ⅱ、現代文化資源学概論Ⅰ～Ⅱ（各2単位）の計8単位を履修し、メディア論、現代文化資源学実習A～B（各2単位）から4単位以上の合計12単位以上を履修

- ・展開科目のうち、3年次に課題研究Ⅰ（2単位）及び課題研究Ⅱ（2単位）計4単位を履修
- ・展開科目のうち、4年次に課題研究Ⅲ（2単位）及び卒業論文（8単位）計10単位を履修
- ・展開科目のうち、2～3年次に現代文化資源学コース開講の展開科目（課題研究Ⅰ～Ⅲ及び卒業論文を除く。）（各2単位）から計16単位以上を履修

なお、各コース専門教育科目の履修方法については【資料7：カリキュラムマップ】でも併せて示している。

## 6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

公認心理師を目指す者は、まずは、公認心理師の受験資格を取得するために、人間科学コースの心理学履修モデルにおいて、公認心理師法施行規則に定める25科目を履修する必要がある。

公認心理師の受験資格を得るために単位修得が必要な科目のうち、「公認心理師の職責」、「学習・言語心理学」、「司法・犯罪心理学」、「人体の構造と機能及び疾病A」、「人体の構造と機能及び疾病B」については、「熊本大学と放送大学との間における単位互換に関する協定書」に基づき、放送大学で開講する科目の単位修得をもって本学文学部で単位認定を行う。

なお、放送大学において開講する前述の授業科目については、BSテレビ又はインターネットで視聴することができ、原則すべての授業はインターネット配信でも視聴できるため、学生の都合に合わせて受講することができる。

## 7. 実習の具体的計画

### (1) 教育職員免許状の取得に伴う「教育実習」について

#### ア. 実習の目的

ディプロマ・ポリシーに定める「創造的な知性をもって自ら課題を発見し解決する実践的な能力及び現代を生きる人間に必要なグローバルな視野と市民的公共心を備え、他者と共有、共感しあい、社会や心の豊かさを探求することができる」人材育成を目的として、将来、教員を志す学生に対して、教員免許状の取得のために教育職員免許法及び同法施行規則によって定められた科目を開講している。その中で、教育実習については、取得しようとする教員免許状に応じた実習先において、教科教育や生徒指導等の教育活動の体験・実践を通して、教員としての資質・能力および実践的指導力の基礎を学ぶことによって理論的な知識だけではなく実践知を習得することを学修上の目的としている。

また、本学において「中学校・高等学校教育実習実施要領」【資料8】を制定し、以下の目的を掲げて、本学の担当教員、実習先の指導教員及び教育実習生間で共通認識を図り、3者の緊密な連携のもと、当該実習を行っている。

1. 学校の組織及び教育活動の全般について観察理解し、併せてその活動に参加すること。
2. 免許を受けようとする教科についての実地授業に当たり、その方法を習得すること。

3.生徒を観察し指導する能力を養うこと。

#### イ. 実習先の確保の状況

実習先については、学生の希望に基づくものとし、県外の出身校等、遠隔地での実習を希望する履修者もいるが、移動・宿泊の計画を含め、実習先と綿密に調整の上、決定している。また、現地の指導教員と本学教員の連携のもと、適宜支援と助言を加える指導体制を構築し、円滑に実習が進められるようにしている。

なお、これまで教育実習を希望する学生全員が実習先を確保できており、人文科学科開設後も確保できると見込んでいる。

#### ウ. 実習先との契約内容

実習生の受入校については、教育実習に係る「内諾書」や「依頼書」を送付の上、前出の本学において制定した「中学校・高等学校教育実習実施要領」により、本学の担当教員、実習先の指導教員及び教育実習生間で共通認識を図り、3者の緊密な連携のもと、教育実習を実施する。

#### エ. 実習水準の確保の方策

前出の「中学校・高等学校教育実習実施要領」の「5. 単位の認定」に規定する、教育実習に係る評価基準に基づき、学習到達目標を定め、これに基づく成績評価を行うことにより実習水準を確保している。実習中は各実習校において、教員として豊富な実務経験を有する指導者の指導を受けながら学ぶ。また、実習終了後は、「事後指導」を受講し、教育実習での体験・実践を通して、教員としての資質・能力および実践的指導力の基礎を学ぶようにしている。

#### オ. 実習先との連携体制

前出の「中学校・高等学校教育実習実施要領」に基づき、各実習対象校の指導者及び本学の担当教員との密接な連携のもと、適宜支援と助言を加える指導体制をとっている。

#### カ. 実習前の準備状況

所定の疾病にかかる予防接種ならびに抗体検査の受検を事前に指導し、参加の要件としている。実習への参加に際しては受講生に、学生教育研究災害障害保険への加入を要件としている。また、SNSの適正な利用と、個人情報の扱いを含む教育実習上の倫理に関しては、後述の事前指導によって体系的に教育している。

#### キ. 事前・事後における指導計画

教育実習の事前・事後において、以下のガイダンス、説明会等に参加及び指導を受ける必要がある。

- ・教職ガイダンス（2年次の4月）
- ・履修カルテシステム説明会（2年次の2月）

- ・教育実習の参加希望調査（教育実習を受ける前年度(通常は第3年次)の4月)
- ・教育実習希望者へのオリエンテーション（教育実習を受ける前年度の5月)
- ・教育実習事前指導（教育実習を受ける年度の4月）において、教育実習に臨むに当たって必要な知識等を学ぶ。  
 ※なお、「教育実習」を受講するには、受講する前年度末までに、「教育の基礎的理解に関する科目」等を12単位、教養教育・専門教育の合計100単位を修得していなければならない。
- ・教育実習事後指導（11月～12月）を受講し、教育実習での体験・実践を通して、教員としての資質・能力および実践的指導力の基礎を学ぶようにしている。

#### ク. 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

前出の「中学校・高等学校教育実習実施要領」に基づき、本学の教育実習担当教員と実習先の実習担当教職員との間で、定期的に情報共有を行いながら、円滑に教育実習が完了できるよう、本学及び実習先の教職員で連携しながら必要なサポートを行っている。

#### ケ. 実習施設における指導者の配置計画

教育実習を行う者が取得しようとする免許に応じた資格及び豊富な実務経験を有する者を実習協力校に選任していただくよう、依頼している。なお、「教育実習」を受講するためには、受講する前年度末までに、「教育の基礎的理解に関する科目」等を12単位、教養教育・専門教育の合計100単位を修得している必要があるため、通常の講義日程と重複する期間に実施されることもあるが、全学的なカリキュラム調整を行うことによって、受講者が支障なく単位取得できる教育体制を確保している。実習地は県外の出身校等の遠隔地となる場合もあるが、移動・宿泊の計画は履修者との調整に基づいて綿密に策定され、かつ現地では実習先の実習担当教員と本学の教育実習担当教員との間で、定期的に情報共有を行いながら、適宜支援と助言を加える指導体制をとっている。

#### コ. 成績評価体制及び単位認定方法

教育実習にかかる成績評価体制及び単位認定方法について、前出の「中学校・高等学校教育実習実施要領」の「5.単位の認定」に学習到達目標を明確に定め、それに則った評価及び単位認定を行っている。

### (2) 学芸員資格の取得のための「博物館実習」について

#### ア. 実習の目的

ディプロマ・ポリシーに定める「創造的な知性をもって自ら課題を発見し解決する実践的な能力及び現代を生きる人間に必要なグローバルな視野と市民的公共心を備え、他者と共有、共感しあい、社会や心の豊かさを探求することができる」人材育成を目的として、学芸員資格の取得のための「博物館実習Ⅰ」、「博物館実習Ⅱ」、「博物館実習Ⅲ」の実習科目を置く。博物館実習では、博物館に関する科目を学び、そこで学んだ内容を博物館の現場で実際に経験することで、博物館の理念と設置目的、業務の流れ等に対する理解を

深めると共に、博物館資料の取り扱いや教育普及活動、来館者対応等における実務の一端を担うことによって、学芸員としての責任感や社会意識を身に付け、博物館で働く心構えを涵養することを目的とする

#### イ. 実習先の確保の状況

##### 1. 「博物館実習Ⅰ（見学実習）」

実習施設一覧については、下表のとおりである。

実習施設については、学芸員養成にかかる専任の担当教員が、実習の前年度から実習の年度当初にかけて、実習施設、実施日、実習内容等について、計画を策定している。なお、実習は見学が主であり、担当教員が引率するため、人文科学科開設後も問題なく実習可能である。

・実習場所：県内各地の博物館、美術館

・内容：熊本県内の下記博物館 13 館を見学し、見学レポートを提出する。なお、具体的な講義及び実習内容については、「博物館実習Ⅰ」のシラバス【資料 9】に記載のとおりである。

・実習前の準備状況

学芸員養成にかかる専任の担当教員が見学の事前に事前指導書と見学ノートを配布し、他の関連科目の講義時においても適宜口頭で注意事項等を伝達し、見学に当たっての注意事項、見学ポイントと調査項目について周知を行っている。

「博物館実習Ⅰ」実習施設一覧

実習施設名	所在地	受入可能 人数
熊本県博物館ネットワークセンター	熊本県宇城市松橋町豊福 1695	見学のみのため、該当なし
熊本県立美術館	熊本市中央区二の丸 2 番	〃
熊本市立熊本博物館	熊本市中央区古京町 3-2	〃
熊本市現代美術館	熊本市中央区上通町 2-3	〃
八代市立博物館 未来の森ミュージアム	熊本県八代市西松江城町 12-35	〃
熊本県立装飾古墳館	熊本県山鹿市鹿央町岩原 3085	〃
熊本市塚原歴史民俗資料館	熊本市南区城南町塚原 1924	〃
御船町恐竜博物館	熊本県上益城郡御船町御船 995-6	〃
熊本県伝統工芸館（改装中）	熊本市中央区千葉城町 3-35	〃
肥後の里山ギャラリー	熊本市中央区練兵町 12-1	〃
くまもと文学・歴史館	熊本市中央区出水 2 丁目 5-1	〃
熊本市動植物園	熊本市東区健軍 5 丁目 14-2	〃
熊本城ミュージアム わくわく座	熊本市中央区二の丸 1-1-1	〃

## 2. 「博物館実習Ⅱ（学内実務実習）」

- ・実施場所：五高記念館（熊本大学内）

当該実習施設は、学内施設で、学芸員養成にかかる専任の担当教員も当該施設の運営に深く関わっていることから、人文科学科開設後も問題なく実習可能である。

- ・内容：博物館資料の調査と写真撮影、展示におけるキャプション・解説文の作成、展覧会の開催に伴う一連の業務について講義及び実習を行う。なお、具体的な講義及び実習内容については、「博物館実習Ⅱ」のシラバス【資料10】に記載のとおりである。

## 3. 「博物館実習Ⅲ」

「博物館実習Ⅲ」では、原則として、熊本県内の博物館若しくは各自の出身地の博物館において、当該博物館学芸員の指導のもとに、夏季休暇中の5日間程度にわたって集中的に実施する実地体験である。実習期日は、実習先の博物館の都合及び受講者の希望に基づき決定される。なお、当該実習においては、実施の都度に専任の担当教員がその責任の下で調整、交渉する実施体制としており、実習受入依頼書及び承諾書（様式）【資料11】を取り交わしている。なお、具体的な講義及び実習内容については、「博物館実習Ⅲ」のシラバス【資料12】に記載のとおりである。

### ウ. 実習先との契約内容

「博物館実習Ⅰ」は見学が主であり、担当教員が引率すること、「博物館実習Ⅱ」は学内施設であることから契約等は交わしていない。「博物館実習Ⅲ」については、博物館実習に係る「依頼書」を送付の上、学芸員養成にかかる専任の担当教員と実習先の指導者間において「博物館実習に関する申し合わせ」を行い、実習先の指導者及び博物館実習生間で共通認識を図り、3者の緊密な連携のもと、博物館実習を実施する。

### エ. 実習水準の確保の方策

学芸員資格の取得に必要な「博物館実習」については、次の3段階に分けて実習を行うことにより、学芸員としての責任感や社会意識を身に付け、博物館で働く心構えを涵養することを目的としている。

- ・博物館実習Ⅰ（見学実習）・・・1年次に通年で実施
- ・博物館実習Ⅱ（学内実務実習）・・・2年次後期に実施
- ・博物館実習Ⅲ（実習施設実習）・・・3年次の夏季休暇中に集中的に実施

なお、それぞれの実習科目においては、前出の各シラバスにおいて学習到達目標を定め、これに基づく成績評価を行うことによって実習水準を確保している。

### オ. 実習先との連携体制

当該実習は、授業科目としての位置づけから、専任の担当教員がその責任と裁量に基づいて受け入れ先との連絡調整を行っている。なお、「博物館実習Ⅲ（実習施設実習）」に

については、実習先の博物館の都合及び受講者の希望に基づき決定されるため、実施の都度に専任の担当教員がその責任の下で調整、交渉する実施体制としている。当該教員に、所定の様式に基づく学外授業届の提出を義務づけ、実習先の把握を行っている。

#### カ. 実習前の準備状況

実習への参加に際しては受講生に、学生教育研究災害障害保険への加入を要件としている。また、「博物館実習Ⅲ（実習施設実習）」の受講に際しては、受講生に実習が始まる2週間前からの健康チェックを求め、実習初日に健康チェックシートを各実習施設へ提出することを義務づけている。SNSの適正な利用と、個人情報の扱いを含む博物館実習の倫理に関しては、文部省令で定める博物館に関する科目によって「博物館実習Ⅲ」の受講までに体系的に教育している。

#### キ. 事前・事後における指導計画

実習前の準備として、1年次に通年で「博物館実習Ⅰ（見学実習）」を受講する。本科目は後続の「博物館実習Ⅱ（学内実務実習）」及び「博物館実習Ⅲ（実習施設実習）」の前段階に実施し、様々な博物館（設置者別・法的区分別・館種別）の運営実態を学ぶことを目的としている。2年次後期に後続の「博物館実習Ⅱ（学内実務実習）」を受講し、資料調査、資料撮影、キャプション・解説文の作成、展覧会の開催にともなう一連業務、教育普及活動を展開する際の基礎的な実務能力、資料の取扱・梱包及び輸送に係る事柄等を身に付け、実習施設実習に備えることを目的としている。適宜提出を求める各課題及び「博物館実習Ⅱ（学内実務実習）」を体験しての反省・自己評価等を総括レポート（期末課題）としてまとめ、それらを専任の担当教員が添削をして学生にフィードバックすることで、課題解決のための指導を行う。

また、3年次の夏季休暇中に集中的に「博物館実習Ⅱ（学内実務実習）」を受講し、これまでの博物館に関する科目で学んだ内容を博物館の現場で実際に経験することで、博物館の理念と設置目的、業務の流れ等に対する理解を深めると共に、博物館資料の取り扱いや教育普及活動、来館者対応等における実務の一端を担うことによって、学芸員としての責任感や社会意識を身に付け、博物館で働く心構えを涵養することを目的としている。

また、実習施設実習を体験しての反省・自己評価等レポートを課し、専任の担当教員が添削をして学生にフィードバックすることで、課題解決のための指導を実施する。

#### ク. 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

#### ケ. 実習施設における指導者の配置計画

当該実習は、授業科目として位置づけられており、「博物館実習Ⅰ」及び「博物館実習Ⅱ」については、文学部の専任の担当教員が実習を担当し、直接、指導・引率等を行っている。「博物館実習Ⅲ」では、原則として、熊本県内の博物館若しくは各自の出身地の博物館において、当該博物館の学芸員として豊富な経験を有する者の指導のもとに実施している。なお、「博物館実習Ⅲ」は、夏季休業期間中に集中的に実施されるため、通常の講義日程と重複することはない。また、当該実習では、県外の遠隔地での実習を選択する

者もいるが、移動・宿泊の計画は履修者と専任の担当教員の間で調整し、綿密に実習計画が策定され、かつ現地の博物館の指導者と連絡体制を密にして、本学教員も適宜支援と助言を加える指導体制をとっている。

#### コ. 成績評価体制及び単位認定方法

学芸員資格の取得に必要な文部省令で定める博物館に関する科目のうち、特に実習科目である「博物館実習Ⅰ～Ⅲ」については、それぞれの実習科目ごとに、前出の各シラバスにおいて学習到達目標を明確に定め、それに則った評価及び単位認定を行っている。

### (3) 社会調査士資格の取得のための「社会調査の実習を中心とする科目」について

#### ア. 実習の目的

ディプロマ・ポリシーに定める「創造的な知性をもって自ら課題を発見し解決する実践的な能力及び現代を生きる人間に必要なグローバルな視野と市民的公共心を備え、他者と共有、共感しあい、社会や心の豊かさを探求することができる」人材育成を目的として、「社会調査実習Ⅰ」、「社会調査実習Ⅱ」、「社会調査実習A1」、「社会調査実習A2」、「社会調査実習B1」、「社会調査実習B2」の実習科目を置く。これは調査の企画から実査、報告書作成までを軸とした一連のプログラムとして構成される。2年次までに学習した社会調査についての知識をふまえ、実際に現地調査に取り組むことによって理論的な知識だけではなく実践知を習得することを学修上の目的とする。あわせて本科目を通じて質的・量的両面にわたる諸データの高度かつ応用的な分析を展開する能力を身につけることもねらいである。

#### イ. 実習先の確保の状況

社会調査実習に関する諸科目では、実査（インタビュー、アンケート、フィールドワーク等）を行う。これらの科目は特定の受け入れ先組織や団体を定めず、実施の都度に文学部の教員がその責任の下で調整、交渉し引率する実施体制としている。このため実習受入承諾書等については作成していない。

#### ウ. 実習先との契約内容

実習生の受入については、社会調査実習のテーマ、目的に応じて、担当する教員が実施の都度とその責任の下で調整、交渉し引率する実施体制としているため、その交渉時に「社会調査実習に関する申し合わせ」を行い、社会調査実習を実施する。

#### エ. 実習水準の確保の方策

それぞれの実習科目においては、各シラバスにおいて学習到達目標を定め、これに基づく成績評価を行うことによって実習水準を確保している。また社会調査士資格の認定のため、実習科目には例年、その年に実施した実習の内容に関する詳細な報告と、完成した調査報告書を社会調査士協会に提出する義務がある。

【資料 13：「社会調査実習Ⅰ」、「社会調査実習Ⅱ」、「社会調査実習 A 1」、「社会調査実習 A 2」、「社会調査実習 B 1」、「社会調査実習 B 2」シラバス】

オ. 実習先との連携体制

当該実習は、授業科目としての位置づけから、専任の教員がその責任と裁量に基づいて受け入れ先との連絡調整を行っている。実習に際しては教員に、所定の様式に基づく学外授業届の提出を義務づけ、調査訪問先の把握を行っている。

カ. 実習前の準備状況

実習への参加に際しては受講生に、学生教育研究災害障害保険への加入を要件としている。

SNS の適正な利用と、個人情報の扱いを含む社会調査の倫理に関しては、2 年次に社会調査士の資格要件の科目として受講する「社会調査法概説」【資料 14】によって事前に体系的に教育している。

キ. 事前・事後における指導計画

当該実習は 3 年次において履修する演習科目と緊密に連携して実施するカリキュラムとなっている。具体的には所属するコースによって、それぞれ「社会調査実習Ⅰ、Ⅱ」、「社会調査実習 A 1、A 2」、「社会調査実習 B 1、B 2」のいずれか一つを履修することとしている。これらの科目では 2 年次までに学習した社会調査についての知識をふまえ、実際に調査の企画等の事前指導を行い、実査に臨む。実査後は報告書作成等の事後指導を経て、報告書作成を経験し、これらに関する理論的な知識だけではなく実践知・技能を習得し、諸データの高度かつ応用的な分析を展開できるようになることを目標としている。

ク. 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

ケ. 実習施設における指導者の配置計画

当該実習は、授業科目として位置づけられていることから、文学部の教員が実習を担当し、直接、指導・引率等を行っている。実習は主に夏季休業期間中に集中して実施されるため、通常の講義日程と重複することはない。調査地は県外の遠隔地となる場合もあるが、移動・宿泊の計画は履修者との調整に基づいて綿密に策定され、かつ現地では指導教員が実習期間中は常駐し、適宜支援と助言を加える指導体制をとっている。

コ. 成績評価体制及び単位認定方法

社会調査士資格の取得に必要な「社会調査の実習を中心とする科目」（「社会調査実習Ⅰ、Ⅱ」、「社会調査実習 A 1、A 2」、「社会調査実習 B 1、B 2」）については、それぞれの実習科目ごとに、前出の各シラバスにおいて学習到達目標を明確に定め、それに則った評価及び単位認定を行っている。

(4) 公認心理師資格の取得に伴う「心理実習」について

ア. 実習の目的

ディプロマ・ポリシーに定める「創造的な知性をもって自ら課題を発見し解決する実践的な能力及び現代を生きる人間に必要なグローバルな視野と市民的公共心を備え、他者と共有、共感しあい、社会や心の豊かさを探求することができる」人材育成を目的として、「心理実習」の実習科目を置く。当該実習は、公認心理師資格を取得するための必須科目（80 時間）であり、心理臨床現場の実際を知り、心理臨床の基本的姿勢と技法を習得し、心理臨床実践家として役立つ知見を得ることを目的とする。なお、本実習では、心理学、特に臨床心理学、発達心理学が活用されている施設で行う実習を通して、心理職の業務内容と役割と義務等についての学びを深める。実習施設は、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働領域から複数の現場での実習を予定している。

イ. 実習先の確保の状況

実習施設一覧については、下表のとおりであり、公認心理師法施行規則等に基づき実施する心理実習の実施施設として、実習生を受け入れることを承諾している【資料 15：実習施設承諾書】。なお、下記施設は、文部科学省及び厚生労働省における心理実習にかかる確認申請において承認された施設である。

令和 8 年度心理実習施設一覧（予定）

実習施設名	所在地	受入可能人数
熊本県精神保健福祉センター	熊本市東区月出 3-1-120	15 人
熊本市児童相談所	熊本市中央区大江 5 丁目 1-50	〃
熊本市こども発達支援センター	熊本市中央区大江 5 丁目 1 番 1 号	〃
熊本市教育相談室	熊本市中央区大江 5 丁目 1-50	〃
熊本少年鑑別所	熊本市西区池田 1 丁目 9-27	〃
熊本大学病院	熊本市中央区本荘 1 丁目 1 番 1 号	〃
一般社団法人熊本市医師会 熊本地域医療センター	熊本市中央区本荘 5 丁目 1 6 番 1 0 号	〃
特定医療法人ピネル会 ピネル記念病院	熊本市東区佐土原 1 丁目 8-33	〃
特定非営利活動法人ソーシャルデザイン ワークスソーシャルスクエア水前寺	熊本市中央区水前寺公園 3-4 土山天祐堂ビル 2 階	〃

ウ. 実習先との契約内容

- ・熊本市所管の実習施設においては、熊本市が定める「熊本市における保健、福祉及び医療関係実習生受入れ実施要綱」【資料 16】に基づき、個人情報保護や事故防止に

関する取り決めを行っている。また、実習受入れ依頼書、実習委託契約書、実習生名簿、誓約書の提出が求められている。

- ・熊大病院における実習では、オリエンテーションの受講並びに誓約書、ワクチンの接種状況にかかる調査票、実習健康チェックシート、実習中の行動記録シート等の作成及び提出が求められている。【資料 17：熊大病院実習に関する誓約書等】
- ・熊本県精神保健福祉センターにおいては、「熊本県精神保健福祉センターにおける学生等実習受け入れに関する要項」【資料 18】の中で、実習費、実習指導者の責務、損害賠償、実習生の負傷・事故等における対応、秘密の保持等に関する取り決めを行っている。また、実習申請書、実習計画書、誓約書の提出が求められている。
- ・熊本地域医療センターにおいては、誓約書、健康診断証明書、ウイルス抗体調査票の提出が求められている。なお、健康診断証明書については、実習生が受検した各医療機関の様式によるため、添付を省略している。【資料 19：熊本地域医療センター誓約書等】
- ・熊本少年鑑別所、ピネル記念病院、ソーシャルスクエア水前寺店においては、誓約書【資料 20】の提出が求められている。

#### エ. 実習水準の確保の方策

本実習の受講生は実習前に行う事前学修と準備を 6 時間、学外施設実習合計 68 時間、事後学修と発表等を 6 時間を行うことで、本実習科目は計 80 時間となる。実習する施設、実習期間、実習内容は、受講生と施設の都合を考慮して決定していく。実習中は実習施設の公認心理師として豊富な実務経験を有する指導者及び担当教員の巡回指導を受けながら学ぶ。「心理実習」においては、シラバス【資料 21】において学習到達目標を定め、これに基づく成績評価を行うことによって実習水準を確保している。

#### オ. 実習先との連携体制

各実習対象施設の受入要綱等に基づき、本学から実習計画書を提出し、実習中は実習計画書に基づき施設の指導者及び本学の担当教員（心理実習施設連絡委員）との密接な連携のもと、施設の指導者による直接指導及び本学教員の巡回指導を受けながら学ぶ。

#### カ. 実習前の準備状況

実習先施設の定める所定の疾病にかかる予防接種ならびに抗体検査の受検を事前に指導し、参加の要件としている。実習への参加に際しては受講生に、学生教育研究災害障害保険への加入を要件としている。また、SNS の適正な利用と、個人情報の扱いを含む心理実習上の倫理に関しては、公認心理師法施行規則に定める公認心理師となるために必要な科目の履修をとおして、事前に体系的に教育している。

#### キ. 事前・事後における指導計画

心理実習の受講予定者は、心理実習の前段階として、「心理演習」を受講する。当該科目は演習形式の授業を行い、心理学の知識及び技能の基本的な水準の習得を目的としてい

る。本授業は公認心理師受験に必要な単位であり、通年開講の 15 コマの授業回を予定しており、4 人の教員で分担し授業を行う。授業では提示されたテーマ等をもとに、受講生がプレゼンテーションや議論、事例検討を行う。また、心理面接の技能を身に付けるために、カウンセリングのロールプレイング等も行う。授業回によっては、授業内容の振り返りとしてリフレクションシートの提出を求めることもある。

また、心理実習では、受講生は実習前に 6 時間、学内において、受講者全員によるオリエンテーション・事前学習会及びグループ別に事前学習を行い、心理実習の準備を行う。学外施設心理実習（68 時間）後は、学内において 6 時間、グループ別に事後学習を行い、受講者全員による実習報告会を行っている。

【資料 22：心理演習シラバス】

ク. 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

実習演習担当教員は 9 名であり、大学において、教授、准教授、講師又は助教としての心理分野の教育に係る実習または演習の教授に関し 3 年以上の経験を有する者、または、公認心理師の資格を取得した後、公認心理師法第 2 条各号に掲げる行為の業務に 5 年以上従事した経験を有し、実習演習担当教員養成講習会を修了した者である。

実習担当教員は実習施設を訪問し、実習 5 回につき 1 回以上程度の巡回指導を行う。

ケ. 実習施設における指導者の配置計画

心理実習における指導者は、各実習施設において、実習指導者となる要件を満たす公認心理師資格を取得している者が選任されている。

なお、実習施設における実習指導者の配置状況については、下表のとおり。

実習施設名	実習指導者数（令和 8 年度計画）
熊本県精神保健福祉センター	2 名
熊本市児童相談所	4 名
熊本市こども発達支援センター	2 名
熊本市教育相談室	1 名
熊本少年鑑別所	2 名
熊本大学病院	1 名
一般社団法人熊本市医師会 熊本地域医療センター	1 名
特定医療法人ピネル会 ピネル記念病院	2 名
特定非営利活動法人ソーシャルデザイン ワークスソーシャルスクエア水前寺	1 名

## コ. 成績評価体制及び単位認定方法

施設の指導者及び本学の担当教員との密接な連携のもと、前出の「心理実習」シラバスにおいて学習到達目標を明確に定め、それに則った評価及び単位認定を行っている。

## 8. 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

### (1) 企業実習について

企業実習については、文学部の実習科目として存在しないため、単位認定は行っていないが、「学生が自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」を目的として、文学部では従前からインターンシップを実施している。インターンシップについては、大学と企業が提携して行うものと、大学とは無関係に企業が募集して行う公募型インターンシップの二つがあり、複数の大学・学部や企業が参加している「コンソーシアム熊本」の夏季インターンシップもこれに含まれ、文学部からも 20 名近くが参加している。今後も積極的にインターンシップへの参加を継続・推奨する予定である。

### (2) 海外語学研修等の学外実習について

海外語学研修等の学外実習についても、文学部の実習科目として存在しないため、学外実習としての単位認定は行っていないが、留学には多様な形態があり、交流協定を結んでいる海外の大学と学生を交互に派遣する「交換留学」と、夏休みと春休みの長期休暇中に実施される「海外語学研修」や「サマープログラム」を大学又は文学部が提供している。自分自身で留学先を手配する「語学留学」「国際インターンシップ」「国際ボランティア」といった私費留学を行うことも可能である。なお、留学先の大学で科目を履修し、単位を修得した場合、本人の申請に基づき、文学部において審査の上、本学の単位として読み替えて認定する仕組みがあり、今後も継続する。

また、留学には、経済支援制度が用意されており、文部科学省が民間との共同で始めた、返済不要の奨学金や事前事後研修などの支援「トビタテ！留学 JAPAN」では、交換留学など単位取得を前提としたアカデミックな留学だけでなく、インターンシップやボランティア、フィールドワークなど、学校以外を舞台とした多様な活動に対しても提供している。さらに「海外語学研修」や「サマープログラム」では、日本学生支援機構（JASSO）が提供する「海外留学支援制度」が利用できるほか、短期の私費留学でも利用できる貸与型の奨学金もある。

また、本学が実施している国際奨学事業は、留学を含む海外での学習・研究活動、インターンシップなど短期の活動に対しても支援を継続する予定である。

## 9. 取得可能な資格

本学科で取得可能な免許・資格は、次のとおりである。

- ・中学校教諭一種免許状(国語、社会、英語)

- ・高等学校教諭一種免許状(国語、地理歴史、公民、英語)
- ・学芸員（国家資格）
- ・社会調査士
- ・公認心理師（国家資格受験資格）

※ 公認心理師資格取得希望者は、2年進級時に人間科学コース（心理学）に所属する必要がある。人間科学コース（心理学）において、公認心理師養成プログラム〔卒業要件内科目8科目「心理学概論、心理学研究法、心理学統計法、心理学実験Ⅰ、知覚・認知心理学、神経・生理心理学、社会・集団・家族心理学、人体の構造と機能及び疾病」及び卒業要件外科目17科目「公認心理師の職責、臨床心理学概論、学習・言語心理学、感情・人格心理学、発達心理学、障害者・障害児心理学、心理的アセスメント、心理学的支援法、健康・医療心理学、福祉心理学、教育・学校心理学、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学、精神疾患とその治療、関係行政論、心理演習、心理実習」〕の計25科目を受講して卒業した後、大学院社会文化科学教育部現代社会人間学専攻公認心理師専門職コースにおいて必要な単位を修得のうえ修了した者に国家試験の受験資格を得ることができる。

## 10. 入学者選抜の概要

### （1）アドミッション・ポリシー

文学部人文科学科では次のような人を求めます。

1. これまでに幅広く学習に取り組み、本学部の授業を受けることができる学力を有する人。
2. 人間・社会のあり方、歴史社会のあり方、人間の言語・文化のあり方、現代社会の課題解決に関心が高い人。
3. 専門的知識の修得に意欲を持ち、修得した知識・能力を将来の進路に活かそうとする意欲が高い人。

### （2）選抜方法

アドミッション・ポリシーに適合する人材を選抜するために、一般選抜及び総合型選抜Ⅰ、学校推薦型選抜Ⅰを実施し、多様な人材を積極的に受け入れることを目指しています。

- ・一般選抜（前期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等の能力」については、大学入学共通テストを課し、高等学校の教育課程の教科・科目に関する基礎的・総合的な学力・能力を評価するとともに、個別学力検査では、国語及び外国語を課し、入学後の学修により密接に関わる教科・科目についてより深い知識と論理的な思考力及び表現力を総合的に評価する。また、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、調査書により評価し、それらの結果から入学者を選抜する。

- ・一般選抜（後期日程）では、「知識・技能」及び「思考力・判断力・表現力等の能力」については、大学入学共通テストを課し、高等学校の教育課程の教科・科目に関する基礎的・総合的な学力・能力を評価するとともに、個別学力検査では、小論文を課し、入学後の学修により密接に関わる教科・科目についてより深い知識と論理的な思考力及び表現力を総合的に評価する。また、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、調査書により評価し、それらの結果から入学者を選抜する。
- ・総合型選抜Ⅰ（私費外国人留学生入試）では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、日本学生支援機構が実施する日本留学試験、小論文及び面接を課し、本学入学後の学修に必要な基礎的知識及び日本語能力を評価するとともに、論理的な思考力、表現力、勉学意欲及び志望動機を総合的に評価し、それらの結果から入学者を選抜する。
- ・学校推薦型選抜Ⅰ（大学入学共通テストを課さない）では、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等の能力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」については、出願書類による審査、小論文及び面接を課し、学力・能力、勉学意欲及び志望動機を総合的に評価し、それらの結果から入学者を選抜する。

### （3）入学者選抜の概要

#### <一般入試・前期日程（募集人員 115 名）>

一般選抜・前期日程では、大学入学共通テスト、個別学力検査、出願書類（調査書）により評価する。

大学入学共通テストについては、国語、地歴、公民、数学、理科、外国語、情報を課す。

なお、地歴、公民については、地歴から 2 科目選択または地歴、公民からそれぞれ 1 科目選択の 2 パターンを受験者が選択する。

個別学力検査では、国語、外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語から選択）を課す。また、調査書では「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する。

以上の判定結果を総合して入学者を選抜する。

#### <一般入試・後期日程（募集人員 20 名）>

一般選抜・後期日程では、大学入学共通テスト、個別学力検査、出願書類（調査書）により評価する。

大学入学共通テストについては、国語、地歴、公民、数学、理科、外国語、情報を課す。

なお、地歴、公民については、地歴から 2 科目選択または地歴、公民からそれぞれ 1 科目選択の 2 パターンを受験者が選択する。

個別学力検査では、小論文を課す。また、調査書では「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価する。

以上の判定結果を総合して入学者を選抜する。

#### <総合型選抜Ⅰ（私費外国人留学生入試）>

私費外国人留学生入試では、日本国籍を有しない者で、かつ、独立行政法人日本学生支援

機構が実施する日本留学試験を受験した者を対象に、小論文、面接、出願書類（志望理由書等）の成績により総合的に判定する。

なお、在留資格認定証明書の交付申請時に、日本留学中の経費を支弁する能力があることを証明することとしている。在籍管理については、国際教育課及び人社・教育系事務課が連携して、毎月の確認を行う。

<学校推薦型選抜 I（大学入学共通テストを課さない）（募集人員：25 名）>

学校推薦型選抜 I では、高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者で、かつ、全体の学習成績の状況が 4.0 以上であって、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任を持って推薦できる者を対象に、推薦書、調査書、志望理由書、小論文及び面接の成績により総合的に判定する。

なお、推薦できる人数は、一つの学校から 3 名までとする。

文学部人文科学科の募集人員は 160 名であり、各選抜方法とアドミッション・ポリシーとの関係性は下表のとおりである。

（各選抜で特に重視するポイント（◎：特に大きい比重，○：大きい比重））

入試区分	学力の 3 要素			求める人材像 (アドミッション・ポリシー)		
	知識・技能 (基礎学力)	思考力, 判断力, 表現力	主体性, 多様性, 協働性	人間・社会、 歴史社会、言 語・文化への 関心	現代社会の 課題解決へ の関心	知識・能 力の習得 と活用へ の意欲
一般選抜（前期日程）	◎	◎	○	○	○	○
一般選抜（後期日程）	◎	◎	○	◎	◎	◎
総合型選抜 I (私費外国人留学生入試)	◎	◎	○	◎	◎	◎
学校推薦型選抜 I	○	◎	◎	◎	◎	◎

(4) 入試実施体制

入試は、文学部入試実施委員会および人社・教育系事務課が連携し、一体となって適正かつ円滑に実施する。

合否判定については、入試実施委員会で合否判定案を作成し、文学部教授会において審議し決定する。

(5) 正規以外の学生の受入れ

本学学生以外の者が文学部で開講される授業科目の履修または聴講を希望する場合には、選考の上で科目等履修生として受け入れる。また、特定の専門分野について、研究することを願う出願者がいる場合は、研究生として受け入れを許可する。

なお、受け入れにあたっては、当該正規の学生教育に影響を及ぼさないよう受け入れ人数等を考慮し、文学部教授会において審議する。

## 11. 教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

### (1) 教育研究実施組織等の編成の基本的考え方

熊本大学では、教員が所属する研究組織と教育組織を分離した、いわゆる「教教分離」型の組織となっている。文学部の開設時の基幹教員は、大学院人文社会科学研究部（文学系）に所属する50名（教授23名、准教授27名）で構成している。また、一部の資格関連科目においては、他教員組織の教員や実務家教員（非常勤講師）が教育にあたる。

また、「2. 学部・学科等の特色」で前述したとおり、各コースに用意された教育研究領域の1履修モデルあたり8～12名程度という少人数教育の環境並びに2年次以降、学生の希望するコースにおける専門基礎科目、専門科目（基盤科目、展開科目）及び卒業論文の執筆に向けた課題研究を行うなど専門性を深めていくための教育環境を維持するために、欠員補充の際も各履修モデルの専門性等の継続性を考慮した人事を速やかに行う。

文学部人文科学科の基幹教員は、全員が教育上主要と認める授業科目を担当し、文学部人文科学科の教育課程における中心的な役割を担う。

### (2) 教員組織の年齢構成について

文学部人文科学科が完成する時点（令和12年3月）における専任教員の年齢構成は、30歳代3名、40歳代13名、50歳代24名、60歳代6名の計46名となる見込みである。なお、完成年度までに「国立大学法人熊本大学職員就業規則」第21条【資料23】に規定された定年年齢65歳に達する基幹教員4名については、開設当初から当該教員の担当科目及び教育体制を残存する基幹教員で引き続き担当するように教育課程を編成しており、退職後も、完成年度までの教育課程の編成及び管理運営体制に支障が生じない教員組織を編制している。

また、教員の選考にあたっては、国立大学法人熊本大学教育職員選考規則【資料24】及び国立大学法人熊本大学教員選考基準【資料25】に基づくほか、熊本大学大学院人文社会科学研究部研究部教員選考内規【資料26】に基づく教員人事を行う。

### (3) 中心となる研究分野

文学部人文科学科の教育研究実施組織において、中心となる研究分野は、哲学、心理学、倫理学、社会学、文化人類学、地域社会学、民俗学、地理学、アジア史学、西洋史学、文化史学、日本史学、考古学、日本語日本文学、中国語中国文学、英語英米文学、独語独文学、仏語仏文学、比較文学、国際文化学、現代文化資源学である。

### (4) 教員及び事務職員等の協働や組織的な連携体制

文学部人文科学科を担当する事務組織を設置し、学部の学務、総務、人事、財務、施設管理を担当する。文学部人文科学科を担当する事務職員は、教員との相互の適切な役割分担の下で協働・連携し、文学部人文科学科の教育研究活動の支援及び管理運営業務を担う。

## **12. 研究の実施についての考え方、体制、取組**

本学は、研究から研究成果の社会実装までの一貫した研究サポート・マネジメントを行うことにより、本学の研究力の向上を図るとともに、地域課題の解決に貢献することを目的として、理事・副学長（研究担当）が統括する「研究開発戦略本部」を設置し、組織の学術研究・産学連携活動を横断的に支援する活動を展開している。

なお、技術職員については、研究開発戦略本部に置く技術部門に所属し、本学における技術支援を行っている。

また、URA は学内の研究者の研究内容を深く理解し、従来の事務職員による支援業務から一歩踏み込んだ様々な業務を行うことができる専門的な職員として、研究推進戦略、産学連携・知財管理を担当する URA が活動しており、次の研究支援業務を行っている。

- 研究力の調査・分析
- 研究戦略の企画・立案
- 国際共同研究拠点等への支援
- 科学研究費助成事業申請に係る各種支援
- 科学研究費助成事業以外の競争的資金に係る申請支援
- 民間企業等との共同研究、受託研究に関すること
- 知的財産の権利化および運営に関すること
- 研究広報に関すること
- テニュアトラック事業に関すること
- 研究活動に係る不正防止に関すること

大学院人文社会科学部（文学系）では、個々の教員に教育研究経費を配分するほか、学術研究推進経費や国際発表助成などの予算措置を講じることで、研究活動の推進を図っている。また科研費等の研究プロジェクトの遂行に際して研究室が必要な場合は、その必要性を慎重に検討のうえ、教員研究室とは別に貸与している。

## **13. 施設、設備等の整備計画**

### **(1) 校地、運動場の整備計画**

本学部の主要な利用施設としては、熊本大学黒髪北地区の文法棟本館等を使用する。その他、全学共用施設として、熊本大学グラウンド（陸上競技場、サッカー場、ラグビー場）、熊本大学

体育館（第1、第2、武道場）、プール、テニスコートの他、熊本大学附属図書館中央館（ラーニングcommons、グループ学修室等）を共同利用する。教養教育については、黒髪北E1（全学教育棟）の各教室を主に使用する。

また、学生が休息するスペースとしては、学生会館、くすの木会館、FORICO（福利施設）に食堂が備えられている。

#### 【資料27：熊本大学黒髪北地区配置図】

### （2）校舎等施設の整備計画

本学部の専門教育科目については、履修者数や実施形態に応じ、文法学部本館及び文法学部B講義棟の6講義室（最小177㎡146名収容～最大305㎡313名収容）や小規模演習室、各コースの演習室、各会議室等で実施する。A1～A3及びB1～B3のすべての講義室にはWebカメラ、プロジェクター、スクリーン等が整備されており、Web経由で任意の講義室を連結した講義、ハイブリッド講義が可能である。全学生は時間無制限でZoom会議をホストとして主催することが可能であり、また学内にはWi-Fi環境を整えているため、必ずしも講義室を使わなくとも、友人同士、研究室単位で、自由にリモートでの学習等に使用することができる。

#### 【資料28：熊本大学文法学部本館等 配置図】

### （3）図書等の資料及び図書館の整備計画

同一キャンパスにある熊本大学附属図書館には総数100万冊以上の図書を所蔵している。うち、中央館には、401,694冊の図書を所蔵しており、そのうち人文科学系所蔵図書は約211,885冊（うち洋図書約60,815冊）所蔵している。また、人文科学系所蔵雑誌は約1,281タイトル（うち洋雑誌351タイトル）を所蔵している。さらに、人文科学系雑誌約19,000タイトルを電子ジャーナルとして購読中であり、また、Scopus, Lexis+, JSTOR, Academic Onefile, 朝日新聞クロスサーチ, 熊本日日新聞記事DB, ヨミダス, ジャパンナレッジなど、研究推進に必須の情報を取得するための主要なデータベースに関しても、全学からweb経由で利用することが可能である。中央館においては、閲覧座席を700席以上整備しているほか、常設のPCを80台以上設置しており、書籍を利用したり、あるいは講義等の課題に取り組んだりすることのできる静穏な環境が整備されている。

## 14. 管理運営

本学部では、熊本大学教授会規則【資料29】及び文学部教授会規則【資料30】に則り、毎月第3水曜日に定例教授会、必要に応じ臨時教授会を開催し、学生の入学、卒業及び課程の修了、学位の授与その他の教育研究に関する重要事項について審議し、学長又は学部長に意見を述べることをとしている。

教授会構成員は、大学院人文社会科学部研究部に所属し文学部の教育を担当する教員および大学教育統括管理運営機構、永青文庫研究センター、埋蔵文化財調査センターに所属し文学部の教育を担当する教員で構成され、構成員の3分の2以上が出席しなければ議事を開き、議決することができない。

審議事項としては、各種委員会から提案される、教務に関する事項、教育実習に関する事項、学生の厚生・就職に関する事項、入学試験に関する事項、予算・施設に関する事項、国際交流に関する事項等に加え、規則改正や将来構想に関する事項等が取り扱われる

また、本学部に専門委員会として、教務委員会、入試委員会、広報・情報化推進委員会、国際交流委員会等を組織し、定期・不定期の開催による審議を基に、それぞれの業務を遂行する。

【資料 31：文学部各種委員会】

## 15. 自己点検・評価

### (1) 実施方法

本学は、国立大学法人熊本大学基本規則第 10 条に「本法人は、その教育研究水準の向上を図り、法人の目的及び社会的使命を達成するため、法人における教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら点検及び評価を行う。」ことを規定している。これに基づき、「国立大学法人熊本大学自己点検・評価に関する規則」【資料 32】を策定して、本学が行う自己点検・評価の目的、自己点検・評価の種類、自己点検・評価の実施、自己点検・評価結果に基づく改善、自己点検・評価結果の公表について定め、本学ホームページに掲載して、本規則に沿って自己点検・評価を実施している。

### (2) 実施体制

上述の「国立大学法人熊本大学自己点検・評価に関する規則」において、学長を統括責任者とし、推進責任者を評価領域ごとに定めている。また、教育の内部質保証に関する中核となる会議として、評価担当理事を議長とし、自己点検・評価推進責任者及び各部局の副部局長等で構成する国立大学法人熊本大学大学評価会議（以下、「大学評価会議」という。）を置き、自己点検・評価を実施している。

【資料 33：国立大学法人熊本大学大学評価会議規則】

教育の内部質保証は、教育、設備（ICT）、設備（図書）、学生支援、入学者受入の区分毎に、内部質保証を担当する「推進責任者」及び所管する委員会等を定めている。また、各学部長及び各教育部長、研究科長を教育課程毎の教育の内部質保証の「実施責任者」として位置付け、実施責任者は、推進責任者と連携し、各教育課程における教育の内部質保証に関し必要な活動を行う。

【資料 32：国立大学法人熊本大学自己点検・評価に関する規則】（再掲）

### (3) 評価項目等

自己点検・評価の対象とする領域、推進責任者、所管会議等は次の表のとおりとなっている。

評価領域	推進責任者	所掌会議等
教育	教育・学生支援担当の理事	国立大学法人熊本大学教育会議カリキュラム評価委員会
施設管理	総務・財務・施設担当の理事	国立大学法人熊本大学施設・環境委員会

設備 (ICT)	情報ガバナンスを所掌する副学長	国立大学法人熊本大学 ICT 戦略会議
設備 (図書)	附属図書館長	熊本大学附属図書館運営委員会
学生支援	教育・学生支援担当の理事	熊本大学学生委員会
入学者 受入	入試・高大連携担当の副学長	熊本大学入学試験委員会
研究	研究・グローバル戦略担当の理事	国立大学法人熊本大学研究推進会議
社会貢献	研究開発戦略本部長	熊本大学研究開発戦略本部運営委員会
国際	グローバル推進機構長	熊本大学グローバル推進機構会議

【資料 32：国立大学法人熊本大学自己点検・評価に関する規則】（再掲）

#### （４）結果の活用・公表

推進責任者は、自己点検・評価結果と評価結果に基づく改善策を大学評価会議に報告し、大学評価会議において内容の確認及び検証を行う。その結果を、学長に報告し、改善策を決定して、大学として改善を進める体制となっている。

なお、自己点検・評価の結果については、大学ホームページで公表し、その公表を通して、社会への説明責任を果たしている。

【熊本大学における自己点検・評価】

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kihonjoho/hyouka/ol3mgw>

## 16. 情報の公表

本学では、教育・研究と地域連携の成果発信を強化し、成果の社会への還元を実現するとともに、本学への社会的評価を向上させ、さらには情報の公表を通じて透明性の高い大学運営を行い、大学に対する社会の信頼度を高めるため、web サイト等を通じた情報の発信を行っている。本学公式 web サイトにより、本学の理念・目的、中期目標・中期計画など、本学の方向性を発信するとともに、教育情報の公表を行っている。教育情報の公表内容は、次のとおりである。

### 1) 教育研究情報（学校教育法施行規則第 172 条の 2 関係）

- ・大学の教育研究上の目的及び 3 つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること
- ・教育研究上の基本組織に関すること
- ・教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
- ・入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
- ・授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

- ・学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
  - ・校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
  - ・授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
  - ・大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- ※掲載先 <https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kyoikujoyoho>

## 2) その他

- ・教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報
- ・学位論文に係る評価に当たっての基準

※掲載先 <https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kyoikujoyoho>

- ・学則等各種規程

※掲載先 <http://kokai.jimu.kumamoto-u.ac.jp/~kisoku/>

- ・設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書

※掲載先 [https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/jouhoukoukai/setti\\_joho](https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/jouhoukoukai/setti_joho)

- ・自己点検・評価報告書

※掲載先 <https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kihonjoho/hyouka/ol3mgw>

- ・認証評価の結果

※掲載先 <https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kihonjoho/hyouka/jebgpe>

- ・教職大学院における組織的な連携

※掲載先

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/torikumi/soshikirenkei/daigakuin#kyouikugakukenkyu>

## 17. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

全学及び文学部による FD 活動本学においては、FD 憲章を定め、教育に関わる者の資質・職能の開発が実効性のあるものとして展開されるために、学部・学環や研究科・教育部、さらに講座や学科などにおいては、全学共通の FD 活動及び独自に行う FD 活動に積極的かつ組織的に取り組んでいる。全学共通の FD 活動については、FD 委員会において、全学統一の FD に係るテーマを掲げ、全学 FD 講演会を開催するなど、本テーマに従った各学部等の FD 活動を促し、年度末に当該活動をまとめている。

【資料: 熊本大学 FD 憲章】

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/kyouiku/torikumi/fd>

また、テーマに基づく各学部の FD 活動以外に、全学での活動として、

- ① 学修成果可視化システム ASO を活用した学修指導

- ② 卒業生・卒業予定者・就職先アンケートの実施
- ③ 大学院生へのプレFDの実施
- ④ シラバスチェックの実施
- ⑤ 授業改善のためのアンケートの実施
- ⑥ 授業参観の実施
- ⑦ 新任転任教員等教育研修会の実施
- ⑧ 「厳格で適正な成績評価の基本的な考え方」実質化方策に基づく成績 分布状況の確認の実施
- ⑨ 教学 IR データの利活用  
がある。

文学部においては、全学の FD 活動に加えて、以下の FD 活動及びFD活動への参加を行っている。

- ① 全学FD 講演会への参加
- ② 授業参観
- ③ 学修成果可視化システム（ASO）の更なる活用についての講演会への参加
- ④ 卒業生等アンケートの分析結果の検証
- ⑤ 「『厳格で適正な成績評価の基本的な考え方』実質化方策」に係る成績評価データの確認及び分析
- ⑥ シラバスチェック
- ⑦ 教学 IR データの活用と関係スタッフとの意見交換

さらに、2年に1度、学部全体で授業改善アンケートを実施し、文学部FD委員会において分析を行い、その結果を実施報告書として、大学HPで公開し、授業改善に努めている。また、教員個々においても、授業中に「一言カード」を配布したり、Moodle(LMS)上での「コメントシート」や「Google フォームを活用したアンケート」、「質問カード」、「リアクションペーパー」等を提出させる形で、学生の感想や意見などを収集したりして授業改善に役立てているケースがある。

また、事務職員については、人材育成の具体的手段として、全学的に次のとおり研修を実施している。

・共通研修

職員が職務を遂行するに当たり共通的に必要と考えられるスキル等を習得させる研修（ビジネスマナー研修、語学研修等）

・階層別研修

採用年次、職位階層ごとに実施し、当該年次又は階層に共通して必要となるスキル等を習得させる研修（新採用職員研修、採用2年次職員フォローアップ研修、係長級研修等）

・固有研修

職員が担当する業務分野において、理解を深め事務処理能力の向上を図る研修（会計実務研修、人事業務研修、学務系研修等）

## 18. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

### (1) 教育課程内の取組

社会に出て働くことの意味を学び、自分で進路を決め、就職活動のための知識やスキルを身につけることを目的として、学部共通の専門教育科目の中に「キャリア支援」【資料 34】という科目を配置している。具体的には、多様な現場で働く社会人ゲストを招き、話を聞く中でキャリア形成の在り方や、これから自分自身が生きていく社会や求められる能力などを考え、また、自身のキャリアについて自分自身で設計してみる機会を提供している。

また、「8. 企業実習（インターンシップを含む）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的な計画」の「(1) 企業実習について」において前述したとおり、企業等でのインターンシップに参加し、普段の講義や演習だけでは得られない経験を通じて、キャリアデザインを描けるようにしている。

### (2) 教育課程外の取組、適切な体制の整備

熊本大学の就職関係の委員会組織として、大学教育統括管理運営機構長、各学部・大学院等の委員で構成される「進路支援委員会」を設置し、就職支援や進路相談、支援事業、情報提供及び広報調査等の全般的事項について取り組んでいる。また、教育課程外の取組として、学生への総合的な就職支援を実施する就職支援課において、熊大生の就職活動を総合的に支援する KUMA★NAVI（クマナビ）【資料 35】を開設・運用し、求人情報の検索・閲覧、就職活動関連イベントの申し込み、エントリーシートの添削や面接練習等相談予約の申し込みなど効率的・効果的に就職支援を実施している。